

## 第九回講義へのコメント

今回は政治リテラシーについての講義だった。政治リテラシーとは政治を正しく理解、解釈し、新たに表現する能力のことをさすが、私たちは政治に関心が薄いといえる。この様な態度と報道の自由度の低下などから、日本の民主主義、立憲主義が危機に瀕しているという事だった。講義を終えて、日本の民主主義と民主主義の質が高いとされるデンマークを比べてみた。デンマークの民主主義は歴史が深いという事もあるが、2015年の投票率が約85%と高い事がわかる。その理由として国が、政治への参画の意識を持つように教育していることが挙げられる。私たち日本人も幼少から教育の場でこうした意識を育てる事で、自ら進んで政治リテラシーを身につけられるのではないか。追記:日本は民主主義の歴史が比較的浅い事も手伝ってこの様な危機に面しているのだろうか、とも考えた。

コメント [y1]: 出典を記載してください。

コメント [U2]: そうです、日本では逆に小中高と政治に関心を持たせないような教育の方向性があります。市民が政治に関心持たず行動しないような状況は、為政者からすれば好きに統治しやすく望ましいからです。

この度の授業で、人の命がもののように扱われた現実について改めて考えさせられた。そこに人権は一切なく、異様な状況になにも違和感を感じなくなる感覚の麻痺も恐ろしいことである。—その中でも印象に残ったインタビューが「ここで起こるということは自分にもほかでも起こるということだ。」というものだ。決して遠い昔、遠い国の話ではない。我々人類が起こしたことなのだ。捉え方次第で再び繰り返される恐れもある。そのことを胸に刻み込んで、今日の人権問題、紛争問題に取り組む必要があるのである。

コメント [U3]: 繰り返さないためには、どうしないといけないと授業で説明しましたか。漠然と「問題に取り組む」のではなく、具体的に対応してください。

コメント [y4]: 何を？

政治を考えた時、はっきりとあらわすのは難しい。一人しかいないところに政治はあるかと聞かれると、私はないと答える。一人であるならばそれは独断でしかないからだ。複数人のところに政治は発生するがその政治を行う人が無能であれば正しい政治として機能しない。今の日本では正しい政治を行うためのシステムが危機にさらされている。この危機はどうすれば乗り越えられるのか。正しい政治リテラシーが必要である。政治リテラシーを高めるにはどうするべきか。政治に無関心、無知でいいことだ。無関心、無知でいるならば当然今政治をしている中でどのような問題が発生しているのかわからない。少しでも政治に目を向け、学び、現状を知ることが問題解決の第一歩である。

コメント [U5]: 「独断でしかない」と言うより、一人なら他者との利害の衝突が起こり得ないから、政治は必要ないということ。

コメント [U6]: というより、政治を行う人が無能であれば、強大な国家権力が濫用され、私たち市民がひどい目にあわされるということ。

コメント [U7]: もっと正確に言うと、私たち市民が国家権力によってひどい目にあわされないための政治の仕組み、つまり民主主義と立憲主義が危機にさらされている。

政治はいろいろな要素が合わさって初めて機能するという点で面白いと思う。政治を成り立たせるにはまず、複数の人の利害を調整するための価値の配分とそれを強制する権力という要素が必要だ。しかし、利害の調整を強制する目的だったはずの権力は独り歩きしてしまうこともある。そこで私たち市民はそんな政府を変え、政府の行動を縛るために民主主義や立憲主義を主張する。また、市民が正しく主張するための情報をマスメディアが提供する。このようにいくつもの要素がかかわりあって一つの政治を作り上げていく。だから一つでも欠けるとうまく機能しない。だが逆に言えば、これらの中から一つでも変えることができれば、少しずつかもしれないが確実に政治を変えることができるということだ。

**コメント [U8]:** いくつもの要素なので、最も基点になるのが政治リテラシーの力を市民が付けること。

利害の対立を解消するには、権力と、価値の配分が必要であることが分かった。権力は人間によって利用されるが、不適切に使用される場合があるので、国民は、強大国家権力性悪感をもち、民主主義と立憲主義のもと政府の行動を統制する必要がある。政治的関心が薄れていくことと民主主義と立憲主義が危機に陥ることは悪のループになっている。その悪のループを断ち切るには、国民が政治に関心を持ち、メディアを正しく利用する知識を身につけ、民主主義と立憲主義を守るための情報を収集し、投票で意思を示さなければならない。

そこで、1つ気になったことがあったので質問します。平成2年~8年の間に20代の急激に投票率が下がっているのは何故ですか。

**コメント [y9]:** 質問するときには、①質問する理由、②自分なりの解答、③そう解答する根拠、の三点を書くように。

**コメント [U10]:** その時期、20代に限らず全世代でかなり投票率が下がった理由は、当時の政治状況（金権、腐敗、旧態依然、わかりにくさなど）から有権者が政治への信頼、関心を失い、また1996年（平成8年）から小選挙区比例代表制になり、選挙制度が複雑化したことも敬遠された、と指摘されています。

地球上に多くの人間がいるため、政治が存在する。また、多くの人がいるため、利害がぶつかる。政治は首相などが中心となって、運営しているが、そのうち邪悪であったり無能な人間も存在する。今日みたビデオからもわかるように、その人間が政治を動かせば、国家権力を乱用し多くの人が死ぬ。そうならないために、民主主義が大事である。私が民主主義の危機に関して考えたことは、選挙の際の低投票率である。とくに、若者の投票率が低い。次の未来を作っていくのは、若者であるのに、投票しないことは問題である。若者の行動が、未来を左右していくと考える。

**コメント [y11]:** 何を考えたのか書いてください。

**コメント [U12]:** 今回の授業では触れませんでしたでしたが、1000兆円を超える巨額の財政赤字も若者に押し付けられますから、政治に関心なく投票しないことは、自分で自分の首を絞めるに等しい行為です。

今回の授業では、主に政治について学んだ。今回の授業で私は、私たちは政治リテラシ

一を持たねばならないと考えた。なぜなら、今日本の民主主義や憲法が危機に陥っているからだ。日本は安全で民主主義的な国家であるとずっと思われているが、現在では政府がメディアに圧力をかけたり、強行採決を連発したり、憲法を無視したりと独裁になりかねない状況下におかれている。しかし、その個々は問題にされることはあるが、民主主義や憲法が危機となっているというようにいわれることはほとんどない。また、国民が政治に関わることでできる一つの手段である選挙率の低さからみても政治に興味、関心を持っている人が少ないということは明らかである。国家権力の不適切な行使は過去のナチスドイツのように多くの犠牲を生む可能性がある。そのため、危機を脱却するためには国民一人一人が政治リテラシーをもつ必要がある。

**コメント [U13]:** 一部のまともなメディアや、多くの研究者や弁護士など専門家らは、現政権における民主主義・立憲主義の致命的危機をかなり前から（教育基本法の改正や特定秘密保護法のころから）指摘していますが、なかなか一般の人に広く届くような状況ではありません。

今日は政治についての講義を受けました。普段全然政治に関わろうとしない自分にとっても刺激を受けた講義でした。特に印象的だったのはナチスのところで一個人の暴走と比べて国の暴走はとてつもなく強大な力で人の命を奪っていくところです。そして国家の暴走の可能性は今もどの国でもあるということです。僕たち市民が持てる権力を行使しなければこのような悲劇が日本でも起こりうると思うと恐怖を感じました。起こらないようにするために、まず僕たちが身近にできることは政治に興味を持つことです。そして実際に考えて自分の意見を持つことだと**思います**。また選挙権を積極的に行使することも大きな一歩だと**思います**。

**コメント [U14]:** 刺激を受けるのは大変よいですが、あなたのコメントは感想になっています。「考えたこと」を記しなさいと指示しましたので、論理的な何か考察を書いてください。

今日の授業を聞いて、権利や民主主義は何もしなくても保持されるものではなく、自らが主張し、堅持しようとすることによって保持されるものだとわかりました。私は今まで、選挙権保有者が18歳以上に引き下げられたものの、高校の主権者教育程度の知識しかなく、どこか自分とは関係ない話のように思っていました。しかし、そのような考えでは知らない間に政府にとって都合の良い法律や憲法を作ろうとしている権力者を見逃してしまいます。それは権力者のしていることに加担しているのと同じことではないのかと**思う**のです。私たちは過去の事例から学んで、ナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺のような悲劇を二度と起こさないようにしなければならぬのに、学ぶどころか繰り返そうとしているようにも見えます。私たちは自分たちを守るためにも今政治リテラシーも持ち、立ち上がることが必要だと**思いました**。

今回の饗場教授の授業では政治リテラシーを身につけることの大切さを学んだ。2012年に第二次安倍内閣が発足して以来国会では強行採決が乱発され立法府の働きが行政府によって完全にコントロールされている。また安保法案改正や特定秘密保護法案、共謀罪法案など私たち国民の権利を脅かす法律が次々に可決されている。また公文書の改竄が行われたにも関わらず国民の政治に対する関心は低いままである。このような事態が続けば行政府は何をしても黙認されるという状態になりかねない。私たちが政治を監視するためにも政治への参加はかせない上に、社会情勢について知ることも大切であると再確認した。社会では権力が重要である。日本としては国家権力が最大のものであり、私は「大人たちが決めるものだ」と思って、新しく定められた法律や決まり、政策などは、多少納得のいかないものでも「国が決めたものだから仕方ないか」と何事もなく受け入れていた。だが、ヒトラーの動画などを見て、私 1 人だけの違う意見であっても、国の意見が違っているのではないかと思ったら、自分の考えを伝えるべきだ**思った**。国民の一人一人が冷静になって今までの国のこと、これからの国のことについて、様々に思う正直な意見は大事なのではないの**だろう**か。権力というもの**は偉大であるが、その偉大さに流されてはいけないと思う**。

**コメント [U15]:** 「偉大」という言葉それ自体、肯定的な本質がありますが、国家権力は必要とはいえ、本質は危険性です。「国家権力というものは強大で必要性はあるが、その必要性に流されてはいけない」という表現のほうがいいでしょう。

今回の授業では政治についてと現在の政治の問題点について説明された。まとめると「政治とは社会的な利害のぶつかりを調節、解決する機能のことであり、その機能を果たすためには権力が必要である。そして国家権力は大きな力を持っており濫用すれば大きな破壊を生み出す可能性があるため民主主義、立憲主義に沿って国民が主体的に行動しなければならない。」というのが政治についての説明であり、「若者の得票率の低下、メディアの衰退により民主主義が危機的な状況にあり、政権の憲法解釈の変更や強行採決により立憲主義も同様に危機的な状況である。」というのが現在の問題点の説明であり、そしてそれを防ぐために政治に対する関心、知識、行動力を持たなければいけない、というのが今回の講義の大まかな内容である。若者は自身の生涯に関してだけでもこの先数十年の日本を考えて行動しなければならないのだから、ただでさえ**保守化した高齢者層**より人口が少ないのに投票に行かない、政治に関心を持たないという状況のままでは政治はよくならないであろう。

**コメント [U16]:** 最近の選挙ではむしろ 20 代、30 代の有権者の与党支持率が高いので、保守化しているのはむしろ若い世代のほうとも言える（ただし、若い層が本当に理解して与党を支持しているのかは疑問）。

社会において人間らしく生きるためには、政治が必要である。政治を行うのは人間であり、権力を握るのも人間だ。そのため、国家権力の濫用可能性は忘れてはならないという言葉が**印象的**だった。

文書の改ざんや強行採決の連発など多くの具体的な内容を聞いて、今の日本は民主主義と立憲主義の深刻な危機にあるという事実を改めて感じた。しかし、この危機は実感にくく、分かった時には手遅れになる。だからこそ、政治に対する知識を得て行動できる力を持っているかどうか重要になるはずだ。今まで私は政治にほとんど無関心で、何かできるわけでもないと思込み自分にはあまり関係がないものだと考えていた。しかし、今回の講義でまずは今の日本で起こっていることに関心を持ち、積極的に考えていくべきだと強く感じた。

コメント [U17]: 考えるだけでなく、行動も伴うように。

日本の政治は映像で見たナチスのような凶悪さはないけど、人間が政治を行っている以上、国家権力が濫用されてそうになってしまうという危険性は誰しもが持っていると思った。私たちはメディアを通じて監視し、正しく国家権力が使われていなければ声を上げていかなければならない。そういう賢明な有権者にならなくては、国家権力を好き勝手に使われて映像で見たような状況になってしまうかもしれないのだ。私たち有権者は政治リテラシーを身に付け、今日本の政治が危機にあるのを解決していけるよう行動していく必要があるのだとわかった。そして、政治にはあまり触れないようにしよう、などと考えずに、選挙に行ったり情報を集めたりして政治に参加していくことが大切だと思った。

コメント [U18]: そうです、「政治と宗教にはかかわらないほうが無難」というタブー感が広まっていますが、それではいけません。

今回の講義を受けて、政治が機能するには1 価値の配分 2 権力 が必要であるということが分かった。政治は国家として首相や大臣が行うものだが、皆が有能な人間ではない。現在、日本では民主主義と立憲主義の戦後最大の危機に陥っている。それを解消するためには私たち市民が動かなければならない。特に、これからの世の中を作っていくのは私たちのような若者である。しかし、選挙の低投票率など政治に関心を持つ若者はまだまだ少ない。政治に関心に向け、「政治リテラシー」を持ち、政治に積極的に参加する民主主義の社会を作っていくべきだと考える。そうすることによって、私たち市民の意見を取り入れたより良い社会が作ることが出来るのではないだろうか。

コメント [U19]: 「より良い社会」という生ぬるい話でなく、ホロコーストのような目にあわないため（さらには戦争にまきこまれないように）民主主義は不可欠だ、という話。

今回の講義では如何に「政治リテラシー」が大切であるかを学んだ。

国のトップになるという事は大きな権力を手にすることになる。しかし、ちゃんとした知識もなくその権力にものを言わせているのは良い国家とは言えない。間違った権力の使い方をされるがゆえに映像であったように多くの人々が犠牲になってしまっているのが現状

である。そのような状況を作らないため、また今後の日本を良い方向へと変えていくには政治リテラシーを持っている人を国の代表へと選出する必要がある。そのためには政治について理解を持った若者の政治参加が必要とされる。

今回の授業では、国民の人権を保障するためには、国民自身に政治リテラシーが必要と学んだ。しかし、若者の間で政治に対する興味が低下しているのが現実だ。18歳以上に選挙権が与えられたにも関わらず、低投票率になっているということがその証拠だ。私は、若者の間で政治に興味がなくなっているのは、マスメディアの影響が大きいと考える。マスメディアを通して政府について知るが、最近では、言い合いをしている国会であったり、改竄問題であったりと、政治に対する興味が損なうような報道が絶えない。これでは、政治について知りたいと思わない。また、授業では、マスメディアの衰退が民主主義の危機の原因の一つだと言っていた。この衰退の意味の中には、情報の信憑性の低下も込められていると考える。マスメディアの信憑性の低下で我々は何を信じていいのかわからず、政治に関しても正しい判断ができなくなっているのだ。

今回の授業を聞いて政治とは何か、なぜ政治リテラシーを持たなければならないのかについて学ぶことができた。

授業ではナチスドイツの虐殺された人々の遺体や実際に虐殺された場所であるアウシュビッツ強制収容所の映像を見た。とても衝撃的な映像であった。このようなことが起こったのは1945年のことだが他国で起こるということは、私たちにもその可能性はあるということだというナレーションにはっとさせられた。人間が特定の人を虐殺するというのはあるまじきことであり今後このようなことが起こっては絶対にいけないと再認識した。

私は、政治について深く考えたことは正直言うとあまりなかった。最近18歳から選挙権が与えられ、高校3年生になり選挙には行ったもの人や党を選択するとききちんと選ぶのではなく適当に選んでしまったところがある。政治に対する関心を持つために、テレビや新聞の政治のニュースを見ることから始めたい。

コメント [U20]: ちゃんと授業を聞いてください。政治リテラシーはあなたをはじめ、市民全員がもたねばなりません。

コメント [U21]: 若者全員が政治に理解をもたねばなりません。

コメント [U22]: 若者はじめ日本人の多くが政治に関心を持ちにくい大きな理由は、メディアと言うより、戦後の教育にあります。小中高の授業で政治の具体的な課題などはあまり取り上げられず、教員も面倒を避ける傾向があり、何となく政治から遠ざかるのが良いような雰囲気教育がなされてきたからです。

コメント [U23]: 財務省の改ざんなど森友・加計問題に興味が無いと言うなら、あなたの政治リテラシーがだいぶ低いことを意味します。公文書の改ざんや隠蔽は民主主義の前提を根底から崩す、論外の事件ですし、森友・加計問題にみる総理及び周辺による権力の私物化は、国民からの信頼を致命的に裏切っています。そもそも、この問題は与党側や官僚が平気ウソをつき...

コメント [y24]: これはマスコミが悪いのではなく、そういうことをしている政治家が悪いのではないですか。

コメント [U25]: 日本の新聞・テレビは、確かに現政権下で衰退傾向があるとはいえ、他国と比べるとずいぶんマシなほうです。日本の新聞・テレビなどの報道は基本的に信用できます。しかしネットの情報は疑う...

コメント [U26]: このようなことが起こらないために、どういう仕組みが必要なのか、その仕組みが今の日本でどうなっているのか、再確認しましょう。

今回は「政治リテラシーを高める」をテーマに、民主主義と立憲主義がなぜ大切かについて学んだ。まず前提としてすべての人が「死にたくない、人間らしく生きたい」と考えているとすると人権の保障が必要となり、そのために「政治リテラシー」を持つ必要がある。そもそも「政治」とは社会における利害の調整・解決のためにある。そして政治が機能するには、価値の配分と権力が必要だ。しかし、政治を行う国家が権力を不適切に行使すると、とんでもない事態を招いてしまう。その例がヒトラーによるナチス政権だ。ここからわかるのは、国家権力の強大さ・国家権力の濫用可能性である。権力はそれを持った者が自由に行使できてしまうものである。今回はナチスドイツが例として挙げられたが、日本もそうなる可能性があるをはらんでいる。最近18歳から政治に参加できるようになり、私も高校生の時投票に行った。若者もしっかりと政治について学ばないといけない。

民主主義が上手く機能するためには私たちの政治リテラシーとメディアが不可欠だ。しかしながら、今の日本はメディアに政府が干渉し、政府にとって都合の悪いことが報道されにくくなっている。そして、特定秘密保護法や共謀罪などによって私たちの自由が奪われる可能性も否めない。国民は特定秘密保護法で指定された情報を知ることは出来ず、知る権利が侵されている。政府が権力を使い、指定範囲を変えれば、政府にとって都合な人物を罰することもできる。政治リテラシーを身に着けるためには社会問題を多方向から客観視することが必要だ。政府に干渉されたメディアの情報を鵜呑みにするのではなく、賛否両論様々な情報を得て正解を出せるようにして選挙に参加しなければならない。

コメント [U27]: 日本の新聞、テレビは政府の干渉をはねつけようとする、まともなメディア、ジャーナリストも一部にはいます。

今の授業を聞いたら、スタンフォード大学監獄事件を思い出した。元々普通な人間が、権力の誘惑で乱暴になって、そして対立立場の人々がそれに対して反抗する。権力と金銭の誘惑の力は凄まじい。だから、社会の安定は必ず権力で権力を制圧することが必要だと考えられる。

コメント [y28]: 出典を記載してください。

コメント [y29]: スタンフォード実験では金銭は関係ありません。

人は一人では生きていけないが、多くの人がいると利害が生じぶつかる。その社会における利害を調整や解決するために政治が存在する。政治が機能するためには、価値の配分と権利が必要となってくる。この二つのことが不適切に行使されると、昔の日本やドイツのようなことになってしまう。そのために民主主義と憲法が必要となってくる。

コメント [U30]: 権利でなく、権力。

民主主義は話し合いで決めるもの。しかし最近日本の政治では、強行採決が頻繁に行わ

れている。安倍政権はできなかったものを、次から次へとできるようにしている。つまり、立憲主義を否定している。18歳に引き下がった選挙権を生かして、政治への関心を高め、知識をつけなければいけないと感じた。

コメント [U31]: 行動力も。

私たちが人間らしく生きるためには、「政治リテラシー」を持たなければならない。政治リテラシーとは、政治に関する関心を持ち、知識を得て、行動する能力のことである。私が平和な世の中で暮らすためには必ず政治が必要になる。しかし、政治を行うためには複数の人々、また、国家権力の本質を認識できる人々が必要だ。日本では民主主義と立憲主義が「戦後最大」の危機にある。政治に関する関心と知識があれば、危機察知、行動力を持った人々が増えるであろう。

コメント [U32]: もっともらしい言葉が並んでいますが、全体に、わかっていないようです。しっかり授業を聞きましょう。

今回の授業で政治リテラシーの大切さがわかりました。同時に私たち国民はもっと政治に関心を持ち知識を持つべきだと思いました。知らなければ政府が間違った行動をしていても声をあげるところか気づくことすらできません。私は今の政権がどんなことをしているのかも知らなかったし間違ったことをしていることにも気づきませんでした。言われなければ憲法が国家の行動を縛るためにあるものだということにも気づけなかったと思います。ここ何年かで集団的自衛権についてもめていることは知っていたけれど、それが変わることどう影響があるかなんて考えたことはありませんでした。今回の授業で無知がどれだけ恐ろしいことか気づけたのでこれからは新聞を読む習慣をもう少しつけて、国のやっていることに目を向け政治に関して受動的な人間にならないようにしたいと思います。

コメント [U33]: なんにせよ無知に気づくことは大切です。次は政治に能動的になってください。全体に、感想でなく、考えたことを書いてください。

点や丸の代わりに、半角スペースを空けるのはやめましょう。

今回の講義では、主権者として、政治リテラシーを学ぶ意義について理解した。

講義の内容に関しては、自分はおおむね賛成の意を示す。確かに権力の濫用は未曾有の大災害をもたらす危険性が大きいであり、それを防ぐための方法にも納得がいった。

政治的危機を正しく理解し、そこから脱するために政治リテラシーを学ぶということも理解できた。しかしながら、ゆで蛙にならないために政治リテラシーを知り、危機から脱することを目的とするならば、脱した先に何があるのだろうか。1個人が政治リテラシーに精通していようと個人が与える影響というのが国家に比べて圧倒的に少ないことは



講義でも触れられたとおりでありますが、そうなれば、どこへ、どう脱出するのがよいのだろうか。国内に留まればゆで蛙ならば、海外にでも脱しろというのだろうか。その海外でさえ腐敗が目立つというのに。そういった「脱した後」について、結論がないのが腑に落ちなかった。

今回の講義でまず疑問に思ったことがある。民主主義によって悪い政府を変え、立憲主義によって政府を縛ることができるが、現行の政権はどちらの主義にも従う気が無いように見える。これを行っているのは安倍内閣、つまり三権分立でいうところの行政であり、立法と司法がこの暴走を止めなければならない。しかし、実際は三権が近すぎるあまりにこのような暴走が発生している。そうであれば市民の側から選挙などの方法を使って政府を変えるべきところだが、投票率が低下している上にその少ない票は自民党に流れている。無論、投票率を上げなければ、安倍政権をやめさせることもできないが、それと同じくらいいほど安倍政権が異常であるかを人々に理解してもらわなければならない。高校の自分に選挙に行った友人が自民党に入れた理由を訪ねたところ、有名だからとかいう理由で途中で呆れ返ったことを覚えている。これでは本当に茹でガエルになってしまう。

私たちは、今回学んだように政治リテラシーを持つことをこの現代を人間らしく生きる上で重要視しなければならない。私は、今回の授業を受けるまで、報道の自由など、さまざまな人権の保障がしっかりとなされているのだと思っていた。しかし、よく考え、観察してみると最近の政治家の権力乱用が横行している。このままでは、私たちは利用されるだけの、自分たちの思うような人間で無くなると思った。だから、利用されないためにこれからの民主主義や立憲主義について、政治リテラシーをもち、若い人たちが関心を持って考えて行く必要がある。

今回の餐場先生の講義を聞いて思ったことは、政治における権力の分散と、国民の政治への参加の大切さです。地球上には約 70 億人もの人がいて、日本だけでも 1 億 2 千万人もの人がいるので、全員が自分のしたいように行動してしまうと大変なことになるので、国民をまとめるリーダーが必要になります。そのリーダーに当たるのが、政府です。餐場先生が、政治とは社会における利害の調整・解決だと言っていて、確かに政府はその役目を果たしていると思いました。しかし、政府には国家権力という大きな力があり、その権力

**コメント [U34]:** 市民がゆでガエルの危機から脱するという事は、要は、民主主義や立憲主義の体制が健全に機能され、私たちの人権が保障される社会の状況を意味します。どこかへ脱出するという意味の、「脱する」ではありません。

**コメント [U35]:** そうですね、授業では言いませんが、三権分立という機能も日本では落ちています。小選挙区制になった後、国会議員の質の劣化が生じ、立法府の能力が落ちています。と言ってもその質の悪い議員を選んでいるのは有権者ですから突き詰めれば、私たち有権者のレベルが低いと言うこと。また司法府は、統治行為論に象徴されるように以前から行政府に対するチェックにおいて限界があります。なので、三権分立があっても、なかなか今の政府の暴走を止められません。

**コメント [U36]:** 「自分が高校生のとき、選挙に行った友人に自民党に入れた理由を尋ねたところ」が言いたいこと？

**コメント [U37]:** 確かに、「投票行けと言われるので来たけど、政治はよくわからんからとりあえず、有名で大きいところに入れておこ」という若い世代の有権者が多いです。あなたの危機感がよくわかりますが、自分で呆れ返っているだけでは状況は変わりません。そういう友人らにいろいろ教えてあげてください。日常の会話でも「でもさあ、今の政権ってさあ」とか、政治を話題に上げてみてください。政治に関心と知識もってよどみなく語れることが「かっこいい」と他者に映ることも大事です。

**コメント [U38]:** ちょっと日本語、変ですね。

が1点に集中すればするほど、政府の一部の人たちが好きなように行動できてしまいます。そうならば、**国はとてども危険な状態に陥りかねません**。したがって、その**国家権力を政府の中で分散させることが大切だ**と**思いました**。またそのためにも、私たち国民が政治についての知識を身につけ、政治に参加し、意見を表明させることも大事だと**思いました**。

コメント [U39]: 国というより、私たち市民。

コメント [U40]: 権力を分散させること(三権分立)も大事ですが、授業では民主主義と立憲主義を言いました。そこはわかっていますか。

今回の話を聞いて、政治リテラシーを持つことがいかに重要であるかを**感じた**。正直、今までは政治に対してそこまで関心もなく、日本はなんとなく大丈夫のような気がしていた。しかし、実際に国家権力の強大さを見て、そうではないことがわかった。個人がいくら暴れても、死者はせいぜい2桁だが、国家が暴れば死者は7桁や8桁にもものぼる。実際の映像を見てかなり衝撃を受けた。たくさんの人がゴミのように扱われていた。国家権力の濫用によってこういうことが起こる可能性があると考えると恐ろしいことだと**思った**。また、強大国家権力性悪観を持たねばならないのにも納得した。そして今、政府の行動を縛るための憲法が危機にある。自分たちが政治リテラシーを持たねばならない。今後は、普段から政治に**関心を向けよう**と**思った**。

コメント [U41]: 関心持つだけでなく、行動にもつなげてください。

人間は「人間らしく生きていく」ということを望んでいる。しかし、人間は単独では存在せず複数の人間がいるためそこには争いが存在し、「人間らしく生きていく」ということが成立しないことがある。それを防ぐために政治が存在する。政治は権力の保持と価値の配分という要素を持っており、権力を保持するものによって富を分配することで人間同士の争いを防ぎ、また弱者を救済し、外部からの危険を排除することで「人間らしく生きていく」ことの実現を目指す。ところが現状では権力を保持する者ほどのような政治体制であれ人間である。人間には欠陥があり、その欠陥が政治に影響するという権力の暴走が起こる。そこで我々は現時点において民主主義と立憲主義を仮の正しさとし、この二つによって政治を管理することが求められ、そこには政治に対する理解を必要とする。また、**人間には欠陥があるので将来では人間が政治を行うことが妥当かを考える必要がある**。

コメント [U42]: 人間以外が政治を担う？

今回の授業では、国家権力には圧倒的破壊力と濫用可能性があるという本質を認識することで、民主主義と立憲主義の重要さが分かった。しかしながら、その重要な民主主義と立憲主義が今の日本では危機を迎えている。危機が進行していることは直接実感をもって分かりにくいですが、政治リテラシーがあれば危機から抜け出すことは可能だ。私自身政治に

関する関心、知識、行動力は低い自覚があるため、これから政治リテラシーを身に付けるためにメディアを利用しようとする。私たちはメディアがないと政府のことを知ることができない。しかし最近日本のマスメディアの機能が、政府による抑圧や懐柔、メディア自らの萎縮によって低下してきている。メディアの情報をうのみにして受けとってしまうと、正確に政治リテラシーを身に付けることは難しい。だから、**今必要なのは情報を正しく取捨選択すること、つまりメディアリテラシーだと考える。**

**コメント [U43]:** 確かに今、メディアリテラシーが大変、必要です。とくにネットのフェイクニュースの影響が大きいですから。後期の「政治とメディア」(月曜5コマ目)でも取り上げます。

大学の授業を大切にすれば政治リテラシーを身に付けることにつながる。政治リテラシーとは、政治に関心と知識を持ち、行動する力のことだ。現代の日本では、**投票率の低下が問題となっている。**日本は、民主主義を取り入れており、選挙によって簡単に政権交代が可能である。また、悪い政府を変えることも可能である。しかし、それは国民ひとりひとりが政治に参加して、初めて可能になる。だから、投票率が低下している現代では、民主主義を確立することが不可能である。民主主義が確立しなければ、国家権力は圧倒的な破壊力、濫用性を持っているため、国家の好き放題になってしまうことも起こり得る。このことから、私たちひとりひとりは、政治リテラシーが必要である。そのためには、論理的思考、客観的視野を持ち、信頼できる情報を見極めなければいけない。**大学の授業で、**問題をあげ、客観的な視点から解決策を見つけることが政治リテラシーにつながる。

**コメント [U44]:** 投票率の低下も問題ですが、もっと問題は、今民主主義、立憲主義が日本において壊されつつある現実。

**コメント [y45]:** 授業以外にも、毎日、新聞を読むなどして、自分で学ぶようにしましょう。

今回の授業では、「政治」とは何か、また、権力者が権力を乱用することで起こりうる悲劇について、第二次世界大戦時のドイツで行われたホロコーストについて学び、現安倍政権による憲法改正やその他の問題行為をそのままにしておくことで、日本に何が起ころうとしているのかについて考えた。

現安倍政権は、日本国憲法の9条が「今と変わらない」とうたって国民を安心させ、自民党による憲法改正を進めることで、日本の民主主義と立憲主義を崩そうとしている。メディアの放送自由度の低下や、重要文書の隠蔽・改ざんなどの事実から、民主主義・立憲主義の危機はもう訪れているといえる。しかし、国民にその危機が察知できていないのは、国民に今や将来の日本について考える姿勢と今の状況を変える行動力がないからである。

私たちは、これからの日本を支える世代として、政治に対する関心を持って情報を得、正しい**投票をする義務を負っている。**

**コメント [U46]:** 義務と言うより、本来は権利。

今回の授業で考えたことは、政治リテラシーは必要不可欠であるということだ。現在の日本は民主主義と憲法の二つ戦後最大の危機であり、ゆでガエル状態だ。悪い政府を変える民主主義が危機である理由は、主にメディアの衰退である。政府と市民をつなぐものはメディアであるにもかかわらず、政府による抑圧・懐柔やメディア自らの萎縮から起きている。メディアが衰退すれば私たち有権者は政治家の情報を詳細に知りえない。そして低投票率となってしまう。また、政府の行動を縛る憲法は、首相によって従来とは異なる解釈となったり、与党が臨時国会を開かないといった危機に瀕している。これらの危機から脱出するには、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力である政治リテラシーが必要だ。市民と国家は平等な関係である。私は、政治リテラシーを持つ第一歩として、選挙に行こうと思う。

**コメント [U47]:** 平等というより、市民のほうが、政府・国家より「上」にあります、民主主義社会では。しかし日本人は昔から国家・役所に対する「お上(かみ)」意識があり、そこも問題です。

今の日本では国家権力という猛獣が自分で檻を緩め、中から出ようとしている。それなのに日本国民は気がついてないというのがとても恐ろしい。日本国民は自分も含め政治にあまり関心がない。だからこのような事にも気づかない。自分の国のことなのに政治家に任せきりにしている。多分、日本は第二次世界大戦が終わってから平和に暮らしてきたから、この国家権力の恐ろしさを忘れていく人が多く、政治が遠いものになっている。もっと日本でも自分の国のことだから関心を持って、知識を得、行動することが大切だ。共謀罪や安保法案などの強行採決もあったことは知っているが、もはや選挙の時には忘れていて、そのまま同じ政権に投票してしまう。私達も意識し政治に詳しくなることも重要だか、メディアもそうならないよう報道することも大切だ。日本国民全員がこの非常事態を認識し、危機感を持てば、投票率も上がるし、日本も良い方向に進んでいくと思う。

**コメント [U48]:** そうなるためには、どうするとよいですか。自分が投票という「行動」をすることも大事ですが、他者にもその危機を伝える「行動」も必要です。

「政治とは?」

確かに、改めて聞かれても答えにくい問いである。しかし、日本は「民主主義」であるため、国民である私たちが、主権者であるという自覚をもって向かい合わねばならない問題だ。近年、日本の民主主義は危機にさらされており、その原因の一つに低投票率が挙げられる。これは、特に私たち若者に強く見られる傾向である。

なぜ投票率に低下が特に若者の間で起きてしまっているのか。最大の理由は、政治に対して無関心であるため、政治に関する知識もなく、行動に移さないからだろう。私たちが政治に関してできることというのは、選挙で投票をすることくらいかもしれない。しかし、

「自分一人だけで政治が変わることはないだろう」という意識から、有権者であるにもかかわらず投票をしないというのは、日本の民主主義がうまく機能しない原因となってしまう

**コメント [U49]:** 行動できることは投票以外に多くあります。たとえば、選挙に出る候補者の応援(政治家の中には、まともで、若い人もいます。選挙運動は意外に面白い)、自分たちで勉強会をする(講師として呼んでくれるなら、私はいくらでも協力します)、学生向けに学内でイベントをする(現職議員を招いてトークバトルとか)、議員の事務所にインターンシップで働くなど。

う。それゆえ、私たち一人一人が責任をもって選挙には投票するべきだ。

人間は死にたくないし、人間らしく生きたいことは人権の保障である。[そのためには権力関係の非対称性が必要である]。政治とは複数の人がいるとあるものである。複数の人がいると利害がぶつかる。政治とは社会における利害解決の役割がある。社会で平穏に暮らしたいなら、政治がいる。

私たちは奴隷のように生きないために強大国家権力性悪観を持たなければならない。その為には悪い政府は変えることと、政府の行動を縛ることが必要となる。悪い政府を変えることは民主主義の下で出来ることであり、政府の行動を縛るには、憲法という檻にしておく。

今日の講義を聞いて、知識を持っていないとは行動することができないと改めて知った。近年、若者の投票率が低下し政治への関心が薄れているのは明白だ。関心を持たないと何も始まらない。今、そもそも政治って何ですかと質問されても戸惑ってしまう人の方が多いだろう。この講義で政治とは、社会における利害の調整・解消を行なっていると知った。また、政治を行なっているのは、神様ではない。政治を行なっているのは、人間である。人間は誰しもがミスをする。邪悪な人もいれば無能な人もいる。[そういう認識を持った上で、我々市民にできることをしていく必要がある。最初にも述べたように、そうするには知識を得なければならない。まずは、関心を持つところから始める必要がある。]

先生の「政治とは?」という問いかけで当てられこそしなかったが政治がどういうものかを考えた。しかし「国のことを決めたりする」などという曖昧でおおよそ大学生らしからぬ答えしか浮かばなかった。パワポに民主主義が機能するためには聡明な主権者が必要だとあったが、聡明な主権者である為には政治とは何かを理解し政治リテラシーを持たなくてはならない。

また報道の自由が少しずつ失われているのに私自身も含め多くの人々があまり危機感を持っていないのも危ない。何故なら気づかないうちに大事な法案が可決されてしまっは民主主義ではなくなってしまうからだ。

**コメント [U50]:** 権力関係の非対称性が必要なだけでなく、国家権力は結果として市民との関係で非対称な関係になる、つまり圧倒的に市民は脆弱だということ。だから、市民はぼやぼやしていると簡単に国家によってひねりつぶされます。その危機感をまず持つ、ということ。

**コメント [U51]:** そういう認識を持つのは大事ですが、持った上で、今の政治の状況に対しても、よく考えてください。

今回の講義で政治リテラシーを持つ大切さを学んだ。人間が生きていくためには、自分の属する国家が横暴な政治を行っている場合にそれを止めることだけでなく、属する社会で平穏に暮らすためにも必要なものである。我が国日本は国民主権である。政治は政治家のものでなく、その国に住む市民のためである。だから、おかしいと思うことがあれば、どんどんと声を上げていかなければならない。最近では、シールズと呼ばれる学生の運動が話題となった。このようにデモのような形で声を上げていくのは素晴らしいことである。そのような運動に参加する勇気がなかったとしても、今は SNS と呼ばれるマスメディアと並ぶくらいの権力を用いて気軽に意見を言える場所がある。だから、どんどんと SNS など自分の意見を言ったりして、少しでも理想の政治を作り上げていくために私たちも勇気を出したり、努力したりしなければならない。

**コメント [U52]:** デモに参加したり、SEALDs の活動にかかわるのは、大して勇気は要りません、気軽にできます。

**コメント [U53]:** SNS の発信は大変有効です。ぜひやってください。

初めに「政治とは何か」と改めて問われたとき、はっきりとした答えが見つからなかった。今この社会で生きていくにもかかわらず、社会を成り立たせている政治について自分は何も知らないと実感した。同時に、民主主義と立憲主義が成立して、身の危険を冒されることなく過ごしていることの凄さを感じた。またしかしながら、悪い政治は変え、政府の行動は縛るということが出来ていない日本の今の現実をも知った。恐ろしい映像を見て、「政治には興味ない」なんてとぼけたことを言うてはいけない、政府のやっていることをしっかりと知る必要があると考えた。市民と国家の関係性として権力の非対称性があること、強大国家性悪観を持たなければならないということを改めて学ぶことで、政治リテラシーを身に付けようと考えた。ゆでガエルが茹で上がってしまう前に、学ばなければならない。

**コメント [U54]:** その通りですが、周りには親も含め「とぼけたことを言」っている人が多くないですか、ちゃんと説明してあげてください。

私たちは社会における利害の調整・解決をするために政治を行う。しかし、政治を行う者の中には国家権力を不適切に行使する者もいる。強大な国家権力は政府によって濫用される危険性が常にあり得るといって強大国家性悪観を持った上で、市民には二つの方策がある。ひとつは、民主主義という方法で政府を変えることで、賢明な有権者や報道の自由が必須である。もうひとつは憲法で政府の行動を縛ることで、この憲法によって市民の人権は保障されている。しかし現在の日本では政府の干渉によるメディアの衰退、権力の私物化、憲法の軽視などで民主主義と立憲主義が戦後最大の深刻な危機にある。この状況を脱するには、政治リテラシーを持つことが重要で、関心と知識を持って危機を察知し、行動することが求められている。

私は、今日の授業を聞いて、国家権力の強大さと民主主義を守る意味について考えました。国家が戦争を行えば何千という人々が苦しみ、選挙に行く人が減ればそれだけ独裁国家になる可能性が大きくなるのです。国家が民主主義とかけ離れた戦争などの非人道的な行いをしないようにするためにも、自分に与えられた選挙権をしっかりと行使していかねばならない。

政治を行うということは、国家レベルのことである。それゆえ、時には個人レベルであると死者が2桁であるところ、国家が暴れば7、8桁までの死者を出すということを先生がおっしゃっていた。政治を行う国家は、自分たちが国民の責任を負っていて、ちょっとした行動で多くの人に影響を与えて、それが時には死に追いやると意識を常に持って政治を行うべきである。そして、私たちは国家のこのような権力を十分に理解し、権力が行き過ぎないように常に批判的に見るのが大切であり、これがまさに政治リテラシーである。自分たちには、政治リテラシーがあるということを自覚し、選挙に行ったりニュースを見て現在の日本の政治状況を十分に理解するなどそれに見合う行動をしていかなければならない。

私たちは政治リテラシーを育むべきだと考えた。今日の日本の政治において、憲法を改正するかが重要な論点になっている。これは今後の日本、私たちの生活の安全を守るために話し合いをしていかなければならない。しかし、私たちは日々流れるニュースの一つとして、芸能人の不倫と同じような軽い問題と考えているのではないが。私はそうだった。6月15日の講義を聞いて、政治に関心を持ち深く知る重要性が分かった。さらに政治を考える上で、憲法問題だけではなく森友加計問題も知る必要がある。様々なニュースに目を向けて、複合的に今後の政治について考えていくのだ。政治に視点を置くだけでは気がつかない解決策を思いつく可能性がある。

私たちは戦争が悲惨なものだと知っている。しかし何故戦争が起こってしまうのか。貧困や国家の威厳のためなど一概に一つの理由は無いが、政治を支える民衆が自身で政治を

**コメント [U55]:** 政治リテラシーがある、というより、多くの人は政治リテラシーが乏しいから、それを高めねばならないということ。

**コメント [U56]:** 7月6日金曜 18:15、地域創生・国際交流会館で憲法食堂があります。

考えないことは悪い結果に導く**だろう**。

授業で「政治とは?」という質問があった。当てられた人は少し考えて答えていたが、私は答えが浮かばなかった。日本の政治問題について全国民が知っておかなければならないはずだが、私はあまり興味がないということを言い訳にし、ニュースも新聞も見えていなかったからほとんど内容を知らない。いま日本は、選挙の投票率が低いことや、政治家・役人が平気でうそを言い、文書や情報を隠すなどといった問題が多く危機状態にあることも、聞いたことあるなぐらいの認識だった。おそらく、私ぐらいの認識しかない人は少なくないと**思う**。政治問題が起こる理由には、そういった人がたくさんいるということも関係していると**思う**。今回の授業で、日本の政治問題についてはもちろんだが、世界のことにしても知っておかなければならないと感じた。その問題解決に貢献するためにまず、当たり前のことではあるが、選挙の投票を必ずするというところから始めていきたい。

今回の授業では、なぜ政治リテラシーを持つ必要があるのかが理解できた。今まで、政治とはなにか、国家と市民はどういう関係にあるかといったことを深く考えたことは無かった。**日本の政治の仕組みや、民主主義とはなにかといったことは学習してきた。若者の投票率の低さが問題だということもわかっていた。しかし、なぜそれらが機能しているのか、なぜそれが問題なのかといったことは、理解していなかった。**そして、自身が現状を知らないということにも気づいていなかった。民主主義、立憲主義は国民ひとりひとりによって維持されるもので、何もしなくても存在しているものではない。選挙権を得て、主権者として社会に関わることが出来るようになった今、無関心でいてはならない。自身が権利を持っているということを自覚して、自らの考えを持ち、行動していく必要がある。

**コメント [U57]:** まさに一番大事な本質が、従来の高校までの教育ではあまり教えられていないのです。

私が授業で考えたことは「政治離れが進んでいる」ことである。

「政治離れが進む」ことは私たちの生命を脅かすものである。現在、日本の政治形態は民主主義であり、三権分立を**して**をしている。しかし、私たちが投票を放棄することにより、民主主義の「私たちが選んだ代表者が政治を行う」という概念が崩れてしまう。今は政治の主導権は国民が持っている。しかし、このままでは主導権を国家に奪われてしまう可能性がある。その結果により私たちが知らないまま不都合な政策も進行する。最終的には戦争に発展する可能性もあるだろう。私達ができることは授業の大事なことであった「政



治リテラシー」を持つことのほかに情報公開請求を試みたりするなど政治に消極的ではなく積極的な姿勢をとることである。

政治のことはあまりよくわからないが、選挙権は一応持っているので一応選挙にはいく、というような有権者であった。だから政治には関わっているつもりであった。しかし、この講義を受けて、これは無責任な行為であり、「日本の未来にとっては迷惑なもの」と分かった。選挙権を持って余し行使しないことは選挙権を生かしていないという観点から日本の未来にとって好ましくないことだが、政治についてよく知らぬままメディアや周りに人に流され投票することも前者と同様好ましくない。今私にできることは、政治について、また日本についてを自分の目で見て調べ、自分なりの考えをもつことだ。今ではフェイスブックやツイッターをはじめとして、さまざまな政治家や政治活動を行う全世界の人とかわることができるようになってきている。若い世代とかわかりやすいツールなので、こういったSNSを活用し政治にもっと積極的にかかわっていききたい。

**コメント [U58]:** 現状の政治からみる日本の未来は、「迷惑」というレベルを超えた、もっと悪い状況です。

**コメント [U59]:** SNSは有効ですが、他方ネットの情報や意見はデタラメも多いので、注意が要ります。

今回の講義では、民主主義と立憲主義の大事さについて学んだ。その中で、「政治とは?」という質問があったが、改めて聞かれるとなかなか良い答えを出すことができず、自分はまだまだ政治について知っていないということを痛感した。また、講義の中で見た映像から国家権力というものの強大さを改めて感じることができた。この強大な力を持つ国家が暴走しないようにするために民主主義と立憲主義がある。私たち市民が政治に積極的に参加し国家と市民との間を狭め、国家が自由になりすぎないようにすることで国家の暴走を防ぐことができる。また、メディアが積極的に国家に意見を述べるようにすることで私たち市民に正しい情報がいくということから、今一度報道の自由を求めていく必要がある。

今回の講義で私たち市民がもっと政治リテラシーを持つことが重要であると学んだ。"

私たちはずっと「選挙は大事」「戦争は絶対にしてはいけない」などといったことを学んできた。私たちの中でそれらは当たり前のことだと認識しているが、深く考えるということができていないのではないかと、今回の授業で政治というものについて改めて深く考えることができた。現在、低投票率やメディアの衰退、会計検査院の機能麻痺、人権を軽視するなどの問題が民主主義や立憲主義を危機にさらしているのである。私たちは今、平和

**コメント [U60]:** 戦争の話は22日の講義で話しましたが、そっちの内容も重要です。

な世の中であると思込んでいるが、私たちは多くの問題を抱えており、本当は戦後最大の危機にある。このような実感を持てるようにするには、政治リテラシーを身につける必要がある。どういったことが危機に繋がり、その危機を脱するためにはどのような行動を起こせばいいのか。これらを学ぶことが大切である。自分なりに何度も考え「選挙は大事」「戦争は絶対にしてはいけない」といった言葉の本当の意味を理解すべきである。

第二次世界大戦中にドイツのナチス・ドイツによって行われたホロコーストの映像を見て、国家権力が悪意のある人間に行使されたときの恐ろしさを改めて思い知りました。また、邪悪な人間の手によってそのようなことが起こらないようにするための民主主義であるはずなのに話し合いを煮詰めることもせず強行採決を連発したり、国家の行動を縛るための憲法を国家の都合の良いように変えようとする現在の日本の政権を見て、今日本が非常に深刻な状態に陥っていることを認識し、恐怖を感じました。私たちが映像で見た歴史から同じような過ちをくりかえさないためにも、若い世代の私たちが現在の政治についてを学び、関心を持ち、より良い国民の代表者を選別する目を養い投票する義務があるのだと思いました。

私も農場先生の指摘と同じく、今の国民には政治に対する危機感が足りないと思います。特定秘密保護法や共謀罪の強行採決や憲法の軽視は、民主主義を崩壊させ、ナチスドイツのような邪悪な独裁国家への第一歩であると言っても過言ではありません。また、私が違和感を抱くのは SNS などでの安倍政権の持ち上げです。Twitter ではしばしば安倍首相の慰問やボランティア活動を称えるツイートを目にします。権力を濫用していることが身をもって分かりにくいので、危機感を抱いていない人がいるのだと思います。また、デモを批判的に見ている人も多い印象があります。韓国の朴槿恵政権のようにデモで悪い政府を変えることも可能なのに、経験がないためデモを嫌煙しているのだと思います。政治リテラシーを身につけ、今私たちがどれだけ危機的状況にあるのか自覚するべきだと思います。

日本が民主主義を機能させるためにはメディアの存在が欠かせない。今回の授業でマスメディアの機能が低下していると知った。公文書の改ざんや議員の不祥事ばかりに注目した報道が続いている今、メディアの在り方について考え直すべきである。

森友問題の発端は国有地の払い下げ問題であったが、報道では、問題の解決よりも籠池

**コメント [U61]:** すでに言及しましたが、投票は義務ではないものの、「しないとイケない」現状があるという点で、ある意味、義務的ですね。

**コメント [U62]:** 民主主義や立憲主義に懐疑的で、市民の人権を制限し、国家の支配を強化したい人たちもいますから、SNSでもそうした発信が目立ちます。SNSの難点は、そういう主張に反論しても、往々に感情的な罵倒に堕してしまうところですが、それでも、対抗してまともな主張を発信することは大変重要です。

**コメント [U63]:** デモを「嫌悪」しているですね？デモは確かに有効な表現手段です。韓国の人のほうが行動力はあるんでしょうね。

**コメント [U64]:** 議員の不倫などはどうでもいいですが、公文書の改ざんはきわめて重要ですから、報道が集中して当然です。

氏の動向に重きが置かれていた。これはメディアが報道した内容によって人々の関心が操られた結果といえる。問題の詳細がこれ以上露見することを恐れてメディアを避けようとする政府の姿勢を見過ごしてはならない。日本が抱えている問題に政府がどのように取り組んでいるのか、またそれらに対する国民の反応を探るためメディアはもっと政府に密着した報道を心掛けねばならない。政府の取り組みを伝え、国民の声を届ける、これこそメディアの役割である。私たちが政治リテラシーを持つとともにメディアの活躍が今後必要なのである。

「誰もが死にたくない、平和に生きたいと思う。」大半の人がこの気持ちを持っていて、ここから政治や立憲主義などの一見全く関係のない言葉と絡めて論を展開していく仕方は説得力があって、話に引き込まれた。ナチスによるホロコーストの映像は本当に衝撃的だったけど、この世界で誰かがやったことは再び誰かがやるだろう」という言葉に、あの映像のようなことになり得るかもしれないと想像してしまった。今までは、流れてきた行政系のニュースも聞き流していた。でももう、政府の好き勝手にさせてはいけない。今、なくなりつつある私たちの民主主義と立憲主義を守るために、私たちは政治について、もっと深く知って、政府の好き勝手にされないように、時には日本市民が団結して立ち上がらないといけない。

政治は、複数の人がいるからこそ存在するものであり、複数の人の利害衝突を避ける為にも必要不可欠である。ドイツのアウシュビッツ収容所の映像を見て、このような残酷で非人間的な事が2度と起こらないようにしなければならぬと強く感じた。日本は民主主義国家である為、国民1人1人が政治に参加する事が出来る。そして、政治について自由に意見を述べる事が出来る。しかし、良く考えて政治に参加しなければ、私たちが求めている社会とは全く異なった社会になってしまう場合がある為、十分に気を付けなければならない。例えば、マニフェストで掲げていた内容を無視して政治を行い始めるかもしれない。憲法を自分たちの都合の良いように変え、独裁的な政治を行うかもしれない。そのような危険に陥らない為に、日頃からニュースや新聞を見るようにし、政治に参加するという意識を持ち、選挙があれば投票に行こうと思う。

今回私は、メディアが機能しているかについて特に重視して考えた。安倍政権も6年目

**コメント [U65]:** メディアをもっと活躍させるためには、もし新聞やテレビがいい報道をしていたら（たとえば朝日新聞の財務省改ざん事件のスクープ）、メールやファクス、電話でも、そのメディアをほめてあげるといいです。読者の支持は大きな励みになります。

**コメント [U66]:** ちなみに、大きな批判がある中、強行採決した特定秘密保護法、安保法制、「凶暴罪」法などは、選挙前のマニフェストなどには書いていないか、あっても小さな扱いでしかない中、政権を握れば、それらを強行したという、ある種、有権者をだましたような経緯があります。

となり、事実を国民に伝えるべきメディアが抑圧され、萎縮している状況が見受けられる。さらには、安倍政権と一部のメディアとの癒着も存在し、国民が政治判断するための材料となるべきメディアからの情報が信頼性のないものとなってしまう。メディアは機能していないといえるだろう。同時に民主主義機能も働いていない。私は、同じ政権が長く続きすぎると、メディアも機能せず危険だと考える。実際に、現在の安倍政権は長期政権であり、戦争が起こるのではないかとという危惧もある。今後は政権の体制やメディアのあり方について再考する必要がある。そして、私も政治に対して関心をもち、メディアから出される情報を適切に収集、判断していく力を身に付けたいと考える。

**コメント [U67]:** 国際的に見れば、日本のメディアはまだマシなほうで、一定程度機能はしています。まともな一部メディアはあります。

**コメント [U68]:** 「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」という箴言があります。

今回の授業では「我々は死にたくないし、人間らしく生き生きたい」ということを前提として、ではそのためには政治リテラシーとは何かということから始まった。普段政治に関して耳にしているスルーしてしまっていることを再確認させられた。政治とは社会で平穏に暮らしたいがために存在し、またうまく機能するためには私たちも政治に関する関心を持ち、知識を得、行動しなければならないという最終的には政治リテラシーが大切であるということに行きつく。

また、ホロコーストの映像を見たが、目を覆いたくなるほどの衝撃的なものだった。あの映像から、同じことを繰り返してはいけないと、強く心に誓ったと同時に、政治が暴走する怖さを知った。

私たちは政治についてたくさんを学ぶべき年齢であり、学べる環境にいる。だから、私たち市民が茹でガエルにならないように、やはり政治リテラシーを持つべきであると言える。

アウシュビッツ収容所については、高校までの社会の授業で話を聞いたり、教科書で写真を見たことはあったが、映像を見たのは初めてで、とても衝撃的で恐ろしかった。人がブルドーザーで押されるなんて考えたこともなかったし、信じられなかった。国家権力の強さをひしひしと感じた。日本でも強行採決が行われたり、独裁的な部分が全くないわけではない。だから国民が民主主義を訴え、政府の行動を縛ることが重要なのだ。選挙は国民が政治に対して意思を表すことのできる数少ない機会である。文書の改ざんがあったりして、政治に対する不信感は強まっていて、自分の1票で何も変わらないと思ってしまう部分もあるが、国民皆が投票すれば大きな意思表示となり、国民の意見が政治に反映されると思う。私たち国民が政治に対して積極的になることが大切である。

**コメント [U69]:** 「たり」の言葉の用法に注意。「…聞いたり、見たりしたことはあったが…」がというように、使います。

もともと社会における利害関係の調整や解決のためにできた政治であるはずなのに、その政治による国家権力が人間によって不適切に行使されている例があることを知り恐ろしく**思った**。政治は適切に行われているものだと思っていたが、時に暴れたり濫用されたりする可能性があることを知ったので、これから私たちは今行われている政治にしっかりと耳を傾けて選挙で投票をする必要があると**思った**。また、**今の日本は立憲主義の考え方が薄れてきていることを知り、これからはさらに政治に関心を持ち必要が応じたときに政治を回復することができるような政治リテラシーを大切にしていきたいと**思った**。**

**コメント [U70]:** 今の日本は立憲主義だけでなく、民主主義も壊れつつあります。

**コメント [U71]:** 必要が「生じた」とき？ 必要が生じたとき、というのはまさに今ですよ、と授業では説明しました。

私は、これまで中学、高校、大学と政治や民主主義について学んできた。しかし、政治は私にはあまり関係ない、私がしなくても誰かがやってくれる、とどこか他人事のように考えていた。今回の講義で今の日本の政治の現状を改めて知り、民主主義・立憲主義が危機に瀕していることを学んだ。このことは、民主主義の一員である以上、他人事ではない。政治は、人間が行うものなので、間違いが起きる。国家権力が人間の私利私欲によって不適切に行使され、私たちの人権や尊厳が脅かされる可能性もあるのだ。その危機的状況から脱するためには、私たち国民が正しい政治リテラシーを持ち、行動に移すことが重要なのである。このことから、自分が人間らしく生きたいのであれば、誰かに任せっきりにするのではなく、正しい知識を身に付け、自分で考え、行動するべきであると**思った**。

今日の授業で、私たちには政治リテラシーが必要だということが分かった。政治についての知識を得て、行動する能力が求められているが、現在の私は政治に対する関心が持てない。私を含め、多くの人がそのような状況である。このような状況が、現在の一番の課題である。

強大国家権力性悪観を持って、私たち市民にできる方策として悪い政府を変えるという民主主義がある。確かにこの方策は適切なもので、私も賛成だ。しかし私のように政治に関心のない人にとっては、その政府がよいのか悪いのか判断が難しい。そして自分には無関係のことと判断してしまい、それが低投票率につながり、民主主義の危機になっている。しかし私は今回の授業の映像の中の「ユダヤ人大量虐殺事件がここで起こるということは、他でも起こる可能性がある」という言葉に、自分の政治に無関心な状況に危機感を感じた。政治リテラシーは、人間らしく生きていくためには欠かせない。

**コメント [U72]:** この言葉は大変重要ですね。

立憲主義というのは、憲法が、権力を縛るという形で力を発揮するのであるが、この頃は、逆に、権力者が憲法を利用して、自由にやっているというケースが目立ちます。その一例が、集団的自衛権です。これは、安倍総理が、憲法第九条の解釈を独自に行うことで認められるようになった権利です。私は、このようなことが続くと権力の乱用になりかねないので、政府には慎重になってほしいと**思いました**。

さらに、民主主義というのは、国民が政治に参加することで初めて、その能力を発揮するものであります。しかし、国民次第では、悲惨なことを招きかねます。例えば、国民が選挙に投票に行かないとすると、一部の人々により政治が成立し、権力の乱用を招きかねません。よって、国民は政治に参加することで、**国に貢献すべきだし、私も含め、自分たちが国を作るという責任感を持つべきだと**思いました****。

ナチスドイツの収容所を記録した映像をみて、どこか非現実的に捉えて考えてしまいそうになったが、現地へ赴いた兵士が「どこにでも、我々のところでも起こりうることだ。」と言ったように自分が気付かないうちに徐々にこのような状況になっていくのだと気づかされた。

授業のなかで教授が「最初から侵略するつもりで戦争する国はない。自国の防衛のために始めた戦争がほとんどだ」と仰っていたのが**印象に**のこった。私は法律も同じだと**考える**。安全・安心のために作られた法律であっても、予期できなかったことに濫用される可能性がある。国家権力を制限するための憲法であっても、憲法 9 条の問題のように歴代の総理によってさまざまな、時に、真逆の解釈がされる。

投票の際に自分の一票ではなにも変わらないと断言したり、政治に関心を持たないなど人任せにするのではなく、政治リテラシーを身に付けて自分から変わっていくべきだ。

ニュースで報道されていることが、自分には関係ないと思ってしまう。ついついそう思ってしまうのは、強大国家権力性悪観を持っていないからだ**と思う**。だからこそ、特に若い人は選挙権があるにもかかわらず、投票に行こうとせず低投票率に陥っていると**思った**。また、私は政治は国の代表がしていることだから適切に行われていると思っていた。しかし、実際には必ず適切に行われているわけではなく、立憲主義が否定されてしまっている。このような民主主義と立憲主義の危機から抜け出すためには「政治リテラシー」を高めることがどれだけ大切なものか講義を通して理解できた。自分に関係ないと考えないのでは

**コメント [U73]:** この考え方は、ある種の愛国心ですが、愛国心はよくよく注意が要ります。個人の内面から自然に住んでいる郷土、国家に愛着がわくのはけっこうですが、外から持たせられる形で（たとえば、日の丸・君が代をやれと学校に強制するとか）愛国心を意識するのは危ない。究極的には、国家は個人に愛国心を持たせて、あなたのその愛する国が危機だから、戦争に行ってくれと、兵士を動員し、戦争をする可能性に行き着きます。「市民 for 国家」でなく、「国家 for 市民」という原則を確認しましょう（つまり、市民は国家に貢献するためにあるのではなく、逆に国家は市民に奉仕するために創られたもの）。

なく、自分にも直結した問題だということを意識して、「政治リテラシー」を高めたい。

今日の授業を聞いて考えたことは、今まで現在の日本のような平和な世界を普通の世界として何の不自由もなく過ごしてきたけど、それは普通ではなくて、自分自身の政治の無知によって、一歩間違えば昔のドイツのような虐殺や戦争などが起きてしまう可能性があるということである。私は、日本は平和だから戦争など起こらないだろうと勝手に考えていたが、今日の授業で日本も安倍政権の 9 条改正案が賛成されたなら、戦争も起こる可能性があるということを知って、餐場先生が言っていたように、国家に頼るのではなく自らが強大国家権力性悪観や政治リテラシーを持つ必要がある。また最近の日本はメディアの機能も衰退しており、なかなか真実が分からなかったりしてゆでガエルの危機に陥っているが、その鍋から出て、自分の平和な生活を守るためにも、今回の授業と次の授業を機会に政治についてもっと調べたりして、~~政治リテラシー~~政治リテラシーを身につけていきたい。

政治リテラシーの重要さが、今日の講義ではよく分かった。政治に関して無関心でいれば、政権は好き放題にうごけるので、それを縛るためにも、私たち国民一人一人が様々な報道機関からニュースを得、政治の動向に注目せねばならない。そして、知識を蓄えたいので、数ある政党の中から自分の理想と合致するところを選ばなければならない。正直、現在は与党も野党も、日本の未来を背負う政党とは言い難い。ゆえに、決断には相当な時間を要するだろう。

政治はどうしても自分の主義主張と絡めてしまいたいものであるが、政治は自分一人のものではないので、様々な角度からの情報を集め、どういった提案が国民にとってベストかを客観的に判断する必要がある。そこには右も左も関係なく、一つの共同体だという意識を持ち、理性的に洞察することが不可欠である。

今回の授業を受け、今まで受けてきた主権者教育がいかに本質の部分論じない教育内容であったかを実感しました。

民主主義と立憲主義によって政府を樹立している日本において、主権者である国民自身に求められる責任や責務がどのようなものであるか理解することができました。それは主権者として賢明な判断をすることと、迫る危機を察知し、それに対して対処する行動を起こすことだと思いました。

**コメント [U74]:** 選挙の際、自分の理想と合致する政党や候補者はそうそういません。だからといって、そこであきらめてはいけません。イイ人がいなくても、よりマシな悪い人を選ぶとか、あるいは候補者個人の良し悪しでなく、与党か野党かで選ぶのも重要な選択です。今の社会でとりあえずいいと思うなら与党候補に投票、今の社会おかしいなら、と思うなら野党候補に入れればいいです。「ゆでガエルの危機」に気づいていない人は、とりあえずこのままでいいじゃん、と投票するのでしょうか。

若年層の投票率低下の背景には、「政治や宗教に関わらない方が無難」ということに加えて、「自分一人の一票では政治は変えられない」という俗説を持っている事にもある。政治リテラシーを持ち「行動力」を養うことで、我々主権者は民主主義の下、国の意向を変えることができるかと話された。「一票の格差」問題をメディアが取り上げたり、「18歳選挙権解放」を国が取り上げたりと、少なからず国もマスメディアも、我々主権者の動向を期待して、投票率を上げようと必死に思える。つまり、国が国で強行採決を決めたりしている事には、一見国の暴挙に見えるところ、「社会人」としての我々の行動力の無さにも理由がある、ということだ。だからこそ今回の講義では、強大国家権力性悪観と我々がそれに対する方策を改めて知るうえで、政治リテラシーを我々が持つ意味を話された。国民と国家、どちらも「行動力」を養うことで、円滑な政治を期待することができる。

**コメント [U75]:** そういう意識を「政治的有効性感覚」が低いといいますが、実際は選挙に限らず、多くの活動で政治に影響を与える効果がありえます。選挙でも何万票のうちの一票とはいえ、時にはわずかな数票差で当落を分けるケースがあります。その際の一票は大変影響力が大きいです。

私は、あんまり政治について詳しくはな~~ら~~か~~っ~~たし、今までは興味もありませんでした。しかし、去年、18歳で選挙権をもらい、実際に投票したときに政治詳しくない~~お~~か~~な~~どと~~言~~ってられないなと~~思~~いました。そのため、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力の政治リテラシーを持つと~~考~~えた。また、メディアが機能しないと民主主義が機能しないと習ったが、~~不適切な情報を受け取ってしまう可能性もあるから、知識を身に付け、自分でその情報は正しいのかと考えていかなければならないと~~考えた。

**コメント [U76]:** その能力も大事です。メディアリテラシーといいます。

まず、私は「政治リテラシー」という言葉を今回の講義で初めて聞いた。しかし、講義を聞いてみると、国民は権力関係の非対称性で不利な状況にいるので、国民と国家の関係を知ることや、最近問題になっている公文書の改ざん、隠蔽などで低下してきている民主主義、立憲主義の仕組みを維持するために必要な考えや行動であった。私自身、最近のニュースで公文書のどの部分改ざんされているのか、また、その責任をだれがとるのかなどのぐちゃぐちゃな政府の問題が報道されているのを見たくない。そのうえ、メディアの力が弱くなってきているとなると政府が実際に何をしているのが隠蔽や偽装されてしまう恐れがある。~~こうなると選挙の投票率は今よりもっと低下するだろう~~。18歳になり選挙権をもつ若者の一人としてこの「ゆでガエルの危機」を乗り越えるために「政治リテラシー」をより知り、~~選挙に進んで~~い~~な~~ど~~行~~くなど行動を~~お~~こしたい。

**コメント [U77]:** 確かに政治不信で投票率が下がることはよくあります。この投票を棄権する人々は、批判するつもりで投票に行かないのですが、結局、選挙結果は投票に行った一部の人だけで決まりますから、実質的に批判が何の結果にも結びつきません。単にサボりたいだけで棄権したのと変わりません。なので、批判したいなら投票に行って、反与党の投票をしないと意味がありません。

**コメント [U78]:** 選挙に行くのも最低限の行動として大事ですが、上で述べたように、他にできる行動はたくさんあります。やってみましょう。



今回の授業の内容は、国家権力の強大さと、それを制御するための民主主義と立憲主義や立憲主義の概要、それから、現在の日本の民主主義の危機だった。

民主主義の危機とは、民主主義を維持するために必要な条件が失われつつあることである。先生は、選挙による政権交代、報道の自由と知る権利の保障、熟議と賢い国民、憲法で国家権力の濫用を抑止すること(立憲主義)を条件だと述べられた。しかし、森友学園問題の際の財務省による公文書改竄、共謀罪や特定秘密保護法による知る権利の制限と、政府による抑圧と懐柔によりマスメディアの報道の自由が失われつつあることを例に挙げ、民主主義の危機を指摘された。

先生は結論として、私たちに政治リテラシーを身につけるようにと仰った。それは政治に関する事柄を正しく理解することである。私は新聞を読む頻度を週に1回から毎日に増やして、多くの政治の情報に触れ、政治リテラシーを鍛えることにする。

**コメント [U79]:** 新聞は毎日、そしてなるべく多くの種類の新聞を読んでください。政治リテラシー鍛える際に、行動も忘れず。

とにかく政治リテラシーを身につけることが何よりも大切なんだと感じました。

わたしははじめ、政治リテラシーとは政治の仕組みについてただ知るだけだと思っていました。高校などで習う倫理、政治・経済をしっかり学ぶことで政治リテラシーが身につくと思っていたけど、日本の実際はそうではなく国会内の問題などもしっかり理解して、国内の政治自体にまず興味を持つことからはじまるとおもいました。興味をもって、政治経済の仕組みを理解して国内の問題を主権者として深く考えていくこと、さらに徐々に国際問題にも視野を広げ、自分の身を守るためにも政治的行動をとっていかねばならないと感じました。

実際、わたしは政治への関心が人より甘いと感じています。講義をきいても思いました。ニュースはLINE ニュースしかみないし、みたとしても自分の興味のある事柄や関係のある事柄しか目につきません。興味を持つことから始めたいと思います。

**コメント [U80]:** 新聞を毎日読むようにしましょう、図書館に行けばたくさんありますから。27日のキャリアプラン入門の授業は聞きましたか。新聞を読めば賢くなるし、やさしくなる、と言っていましたね(「結婚相手は新聞を読む人を選べ」と)。

今回の授業で政治について考える良い機会になった。政治リテラシーとは、政治に対する関心をもち、知識を得て、行動する能力ということを学んだ。しかし、今まで政治について考えることはほとんどなかった。いま、私が政治に関することで一番近いことは選挙であるが、去年の選挙があった10月時点で選挙権をもっていなかったため選挙にも行くこともなかった。選挙権を持っていた子は選挙に行く子が多かったが、初めての選挙ということもあり、投票に行く子が増えたがその次の選挙に行く子が大幅に減少するというの

を高校で学んだ。投票率が下がっているのはこれからも問題になっていく**だろう**。そうになると国民が政治に参加しなくなり、政府が政治を行うということになる。よって、国家権力が不適切に行使されるかもしれない。国が悪化しないように考えていかなければならない。だから、私たちは政治リテラシーをもつ必要があるということを**考えた**。

今回の授業を受けて、選挙に行く大切さを改めて**感じさせられた**。私が18歳になってから選挙は行われておらず、私はまだ投票に行ったことがない。しかし、私が投票する1票で何かが変わるのだろうかという気持ちがあった。そして、今の日本の政治がどういう状況にあるのかも理解していなかった。今回の授業で、国家権力の強大さと、それが濫用された時の恐ろしさについて知った。私は、人間らしく平和に暮らしたい。しかし、政治を行うのは神様ではなく人間である。したがって、**政治について無知な人が選挙の投票に行くと、相応しくない人に政治を行わせてしまうかもしれない**。その結果、授業で見た動画のように、手遅れの状況になってしまう可能性もある。そうなる前に、国民の一人一人が政治リテラシーを持ち、その上で選挙に投票に行かねばならないと強く**感じた**。

**コメント [U81]:** 元々無知な人も、投票しようと思えば普通はある程度、勉強する気になるものです。つまり、市民は政治にかかわることで賢くなるという効果があります。それを「民主主義の学校」と言います。

授業でもあったように、「政治とは?」とあらためて聞かれると答えにくいだけでなく、難しく感じてしまい、考えるのをやめなくなる。しかし、政治がない社会で人々は暮らしていくことができない。人権や個人が保証された生活をするために、政治リテラシーを身につける必要があるのだと**思った**。政治リテラシーがあれば、手遅れの状態になる前に危機を察知し、その状況から抜け出すことができる。今、民主主義と立憲主義が危機にあることは、今回の授業でわかった。あまり実感がないが、この状態のうちに対応することが大切だと**思った**。早く対応するために、政治に対して関心や知識を持ち、適切な行動ができるように努めたい。

日本のゆでガエルの状況を打破するためにすべきことは2つあると**考えた**。

一つは、日本の現状をもっととつきやすい形で伝える報道番組を放送することだ。現在の日本では、若年層の政治離れが進んでいる。その原因の一つとして、政治の問題は難しい、ニュースを見てもよくわからない、というものがあげられる。そのため、わかりやすくかつ短時間で理解できるような番組を放送すべきだ。例えばアニメーションを用いたり、若者に人気の俳優やアイドルを起用するのがよい。そうすることで、多くの若者に政

治に関心を持ってもらえるようになる。まずは一人でも多くの人に興味を持ってもらわなければ始まらない。

もう一つは「権力者を一定期間が来たら必ず変える、という制度」にするということだ。アメリカのように、大統領の任期は2期で8年と決めておく。そうすることでただらと政策を進めることを防げるし、一人の人が権力を持つ期間を制限できるからだ。

政府が出している政策に私たちの生活の自由を奪ってしまうようなものや権力を一つに集中させてしまうものがある。私たち有権者は常に政治に関心を持ち、過去にどのようなこと起こったか、今他国ではどのようになっているかを学ぶ必要があり、多くの情報の中から反対意見や賛成意見、信頼できるものを集め友人などと議論し考えを深めていかなければならない。そして多面的に物事を理解し、将来どのようになるかを考え私たちは選挙の投票など行動に移していかなければならない。

今日の授業で、私たちが安心して人間らしく生きていくためにも「民主主義」と「立憲主義」が非常に大切なものだ実感した。また、その大切さを知っているだけではなく、「政治リテラシー」を高めなければいけないとわかった。

今日の授業で一つ気になった点がある。民主主義とメディアの関係で、近年の日本ではマスメディアの機能が低下しているとして「日本の報道の自由が衰退している」とおっしゃっていましたが、私はマスメディアが衰退した理由は報道の自由が抑圧され萎縮しているだけではないと考える。ニュース番組の記者が政治家に対して「的の外れた質問」を投げかける、意見の間違った解釈や切り取りの仕方をしているのは目にあまる。衰退はメディア自体の報道能力の低下もあるのではないだろうか。こういった状況の中で、私たちが身に付けるべきは政治リテラシーはもちろんだが、情報リテラシーも必要である。

今回の講義を受けて、これから生きる私達にとって、政治リテラシーは必要な能力だということを痛感させられた。

特に印象に残ったことは、国家権力は人間によって適切に使われなければならないということである。個人で殺めることができる人数はせいぜい2桁までだが、国家の力は7,8桁も殺めることができ、比にならないほどの破壊力を持っているということを再認識した時、私は恐怖で鳥肌が立っていた。そして今現在、安倍首相が国家権力を乱用している

コメント [U82]: その辺をわきまえている知事は、自分は2期8年しかないという宣言をしていますね。

コメント [U83]: 漠然とした内容。授業をあまり聞いていませんでしたね？

コメント [U84]: ニュース番組ではないですが、たとえば東京新聞の望月衣塑子記者などは、的を射た質問をしています。

コメント [y85]: 具体的にどのような質問なのか、出典を示しつつ書いてください。また、そうした質問が「近年のマスコミ」に特有のものであることを示してください。

コメント [U86]: 時々、記者の中には的外れな指摘や、ずれた解釈の質問もあると思いますが、「目にあまる」程かどうかはわかりません。もっと目にあまるのは、国会での与党側の答弁です。関係ない話を延々と答弁したり、論点からずれた答え方をしたり、根拠のない強弁や断定をしたり、挙句に切れて自らヤジを発したりします。

コメント [U87]: この鳥肌立つほどの恐怖心を、敏感に感じるのがまず重要ですね。津波の恐怖を実感できた人は今、南海トラフ地震にも事前の対応がしっかりできています。政府に対しても、地震に対しても、変に楽観的な人はひどい目にあう可能性が高いです。

面もあるということを学び、私達は今すぐ政治リテラシーを持って行動しなければならない状況に置かれているということを理解できた講義だった。

人権の保障と個人の尊厳を失わないために、私たちにできることは、「政治リテラシーを持つこと」だと分かった。

政治とは何か。地球上に複数の人が共存すると、必ず各々の利害がぶつかってしまう。つまり、政治とは、社会における利害の調整・解決をすることである。そして、政治が機能するためには、価値の配分と権力が必要だ。政治を行うのは政府であるが、政府の国家権力は非常に大きく、濫用される可能性も潜んでいる。主権者の私たちが、政治に関心を持たず、悪い政府を野放しにしていると、悲劇が起こることもあり得る。ヒトラー政権が行った、ユダヤ人の虐殺のように.....。

だから、私たちは、強大国家権力性悪観を常に持ち、民主主義と立憲主義を保持していかなければならない。悪い政府はすぐさま変えて、政府の行動を縛る必要があるのだ。

今回の講義で、これからの日本を動かすのは、誰でもない私たちであると、自覚することができた。

今回の授業で私は、国民が政治に関心を持つことがいかに大切かを **考えました**。私は今、日本で生活している中で、国家権力を怖いと思ったことはありません。それを、当たり前のことだと考えていました。しかし、今回の授業を受けてこれは、当たり前のことではないのだと **思いました**。政治を行う人間が国家権力を乱用してしまうことにより、国民が平穏に暮らすことが難しくなってしまいます。それを防ぐために、私たち国民は政府の行動を変えるためにも、もっと政治に関心を持ち、参加するべきです。具体的には、自分の意志を示すために投票に参加することです。こうすることによって、今回の講義でも出てきた「政治リテラシー」を全国民が持つことに繋がり、人権の保障と個人の尊厳が保障され、国家権力に恐怖を感じることもなく、安心して暮らせる世の中を築いていくことができます。

**平和な社会に生きるためには、健全な政治が必要であるが、現在の日本の政治は様々な不祥事や強硬採決から考えると、健全であるとは言えない。クリーンできちんとした政治が行われるためには、主権者一人ひとりが正しい知識を持ち、政治が自分の生活と密接に**

結びついていることを実感しなければならない。

先日、成人年齢が18歳に引き下げられる法案が可決された。主権者としての教育をさらに行っていくことはもちろん、社会や政治の実情を知る必要がある。また、自分の生活と政治の関係をもっと学び、批判的な考え方ができるようにならなければならない。

**コメント [U88]:** 政治リテラシーという言葉一度も出てきませんが…

今回の授業で、考えたことが2つがある。1つ目は、国家権力の強大さである。日常生活をしているときにはその強大さを感じることはほとんどない。しかし、ドイツでのユダヤ人を含め約2千万人もの人が毒ガスでの殺害や餓死などの理由で亡くなっている。また、現代でも国民投票を行わずに法律を決めたり、メディアに圧力をかけたりと、強大な力をもって国を動かしている事実について考えた。2つ目は、憲法について考えた。「憲法は、国家という猛獣を閉じ込めておく檻である」という意味が国家の強大さを知って、憲法がどれほど重いものであるのが分かった。そうであるにもかかわらず、安倍総理は、憲法第九条を破るような集団的自衛権を強行採決した。これは、憲法を軽視している。しかし、この深刻な現状に国民のすべてが反対しているわけではない。この危機感のなさが、国民の政府に対する意識の低さを物語っており、とても危険だと考えた。

**コメント [y89]:** 具体的にどんなことを考えたのか書いてください。

今日の授業を聞いて自分は「政治リテラシー」の重要度の認識をした。その理由は「人間らしく生きるため」に「政治リテラシー」が絶対必要だと教わったからである。そもそも「政治リテラシー」とは政治に関する関心・知識・行動力のことである。また関心・知識・行動力を市民に働かせるのに1番良い方法はメディアの存在である。しかし近年日本では政府によるメディアへの抑圧・懐柔、メディア自らの萎縮があると聞いたため今後の日本の課題はメディアを今よりもっと自由にしていくことである。しかし、反対意見としてメディアを自由にしすぎたら国家の秘密事項までリークしそうであるので節度を調節していかなければならない。また自分の意見として「政治リテラシー」を持っていると直前の間接的な危機からの脱出も可能だと聞いたので今日からでも毎日少しずつでもニュースを見ていくつもりである。

**コメント [U90]:** 確かに外交上、必要な秘密はありますから、全部をメディアに公開するわけにはいきません。しかし20~30年後など、いずれは公開されるというのが民主主義の原則です。ところが特定秘密保護法は、未来永劫、秘密にできる余地があり、大きな問題点の一つです。

今回の講義で考えたことは、政治リテラシーの認知を増やし、しっかりと持たなければいけないということだ。私達に政治リテラシーが備わってなければ、今の政治を変える行動をする事ができない。悪い方向に動いた政治の方向修正をできるのは国民の私達である。

**コメント [y91]:** テレビでなく、新聞を講読しましょう。

しかし、その私達が政治リテラシーを持っていなければ、修正ができず、さらに悪い方向に向かっていくと今回の講義でよくわかった。

そして、私達がまず行動することができるのは、選挙で投票することだ。選挙率の低さが問題視されているが、投票せずに政治について文句を言うのは国民として間違っている。現在の日本は民主主義で、選挙を通して国民の意思表示をする事ができる。裏を返せば投票すれば今の政治を変えることができるということだ。しっかりと日本国民という自覚を持ち、他人事だと感じないようにしなければならない。

コメント [U92]: 投票率

コメント [U93]: あまり関係ありません。むしろ自分は立派な日本人だという変な愛国心は持たないほうがいいですね。

この講義では「政治」とは、について学んだ。政治について中学校や高校を通じて習ってきたが、実際に「政治」を身近に感じる機会は少なく、どこか遠くの存在のように感じる。そこで、私たちが実際に政治に参加する民主主義の仕組みとして選挙権がある。今、現状として、選挙率が低いというのがある。そして、その中で特に若者の投票率が低いのが現実だ。国家権力は強大であり、もし間違っていることをしようとしているならば、私たちはそれを止めなければならない。その仕組みとして民主主義がとられている。私たち若い世代が特に政治に対して関心を持ち、常に耳を傾けていなければならない。そしてその為に、善悪を見極める政治リテラシーが必要だ。関心と知識を持つだけでなく、行動力を持つことも大切である。悪いものは悪い、良いものは、良いとはっきり言える社会を作っていかなければ、真に過ごしやすと言える社会になったとは言えない。

コメント [U94]: 投票率

今回の講義の内容は、「わたしたちは人権の保障をされた中で生きたいという思いを持っている。しかし市民は国家の前に圧倒的に脆弱であり、その強大な国家権力は政府によって濫用される可能性がたねにある。それを防ぐために、わたしたちは、政治リテラシーを持って生活していかなければならない」ということであった。今の日本は、メディアに政府が関与し、政府にとって都合の悪いことは報道させないようになっている。それにより、わたしたちは本当に知りたい情報を得ることができず、最もふさわしい国の代表者を選出することができなかつたり、悪い政府になっていることに気づかなかつたりすることが起こりえる。政治リテラシーを持って、といわれても何をすればいいか分からないかもしれないが日頃から政治に関心を持ち自発的に行動していくべきである。

金曜日の授業を聞いて初めて現在日本が、民主主義や報道の自由や憲法の危機を抱えて

いるということを知った。これらの危機を悪化させないようにするために、私たちが選挙に参加し、悪い政府なら変えなければならない。

また、金曜日の授業を聞いて、なぜ大勢の人が集団的自衛権の行使を反対するのがよく分かった。集団的自衛権を行使することが、立憲主義を否定することになるのなら、私たちはこれからもずっと反対し続けなければならない。そのためには、私たち一人一人が責任を持って必ず選挙に行かなければならない。

今回の授業では、国家権力の恐ろしさを知った。ナチスドイツでの悲惨な光景を見たり、今の日本の民主主義と立憲主義の危機を聞いて、恐怖を覚えた。投票率の低下や、強行採決、文書改ざんなど、このままでは我々の平穏な生活はどうなってしまうのか、とても不安になった。だからこそ政治リテラシーを身につけなければならないと思った。そして、自分の人権や個人の尊重を守るためには自分だけではなく、日本中の人たちが今の日本の危機的状況を理解し、そのうえで皆が政治リテラシーを身につければ意味がないと感じた。今の政治はもはや誰のための政治なのかわからない。日本全体の経済だけではなく国民一人一人の暮らしにつながるものであってほしい。集団的自衛権についても、再び戦争が起こる可能性を高めるので、怖いと思う。戦争が終わり、何のために第9条を制定したのか、政府にももう一度よく考えてほしいと思う。

今回の講義を受けて、今までテレビや新聞で今の政治に不満を持つ人の主張を見聞きしていたが、初めて実際に不満の声を聞いた。講義の中には資料としてナチスの強制収容所のリアルな映像を見て衝撃を受けたが、国家権力が暴走することの最悪な例ということはよく理解できた。

私はあまり今の日本政権に不満を持っていない。確かに森友・加計問題については政治家や官僚に良い印象は持っていないが、特定秘密保護法や安保法制など、国際交流が増えるなかでのテロの脅威や、近隣の国が核兵器を保持している以上、やり方はどうあれ従来の考え方ではなかなか対処しにくい問題にうまく対応しているのではないかと思う。

ただ、今回の講義は、自分とは違う意見を聞くことによって政治リテラシーを持つ良い機会だった。今回の講義も踏まえて日本の政治をより客観的に俯瞰できるようにしたい。

今回の話を聞いて「政治リテラシー」というものが自分にとって重要であると考えた。

**コメント [U95]:** 集団的自衛権は、憲法（立憲主義）とは別に、政策論としてみた場合、賛否両論はありえます。

**コメント [U96]:** そうした恐怖や政治リテラシーの必要性などを他の人（この授業を取っていない人）にも伝えてください、おそらく親もわかってない人が多いと思います。

**コメント [U97]:** たとえば、1085兆円の財政赤字（2017年末）の問題はどうか。これは一人頭だと858万円です。あなたも含めて国民全員がひとり850万円を政府に戻せば、国の借金はチャラになります。で、こんな赤字はすぐには減りませんから、間違いなく、この借金はあなたが若い世代に付け回されます。これはとくに不満ありませんか。

**コメント [U98]:** 今回の授業では詳しく触れませんでしたので、この点少し補足します。特定秘密保護法や安保法制、「共謀」罪法は、確かに日本の安全に資する一面はありえます。重要なのは、あわせて生じる弊害の大きさと、「功罪のバランス」です。特定秘密保護法では市民の「知る権利」、「報道の自由」が大きく制約されます。安保法制では軍事的な抑止効果はありえますが、「安全保障のジレンマ」により、逆効果が生じます（安全保障のジレンマとは、こちらが自分の安全のために武力の強化に出ると、相手も対抗して武力の強化に走り、軍拡競争に陥る結果、逆に安全でない状況を招くというジレンマ）。共謀罪は、テロリストを計画段階で摘発できますが、テロと直結しない277の犯罪においてテロと関係ない市民の、ふつうの相談事さえ検査でき...

政治リテラシーとは、政治に対する関心、知識、行動力のことである。現在の政治はどれが本当に正しい情報か判断するのが難しい。現代で政治リテラシーは必須であると言える。また、悪い政治が行われている場合の市民の対策も知っておくべきだと考えた。政治が機能するには価値の配分と権力が必要である。その中でも権力が間違った使われ方で使用されると、市民は多大な被害を受ける。そうならないためにも、市民の対策として悪い政府は変える、政府の行動を縛るといったことを知っておくべきである。

以上のことを私たちは知っておくべきだと考える。

アウシュビッツの動画を見て、本当に胸が苦しくなった。個人がいくら暴れても死者数はせいぜい2桁。しかし国家が暴れると、死者数は7,8桁にのぼる。その事実を改めて確認し、国家権力の乱用がいかに恐ろしいことにつながるのかということがよく分かった。我々は間違った政府の政策に対抗するため、民主主義の性質を活かして選挙に行き、政治に参加することは絶対に必要なことである。そして、立憲主義が正確に適用されることを、しっかりと自分たちの目で監視することが大切なのである。民主主義と憲法を正しく機能させるために、政治に関する知識を持つだけでなく、行動に移す力をつけるべきだ。また、メディアが機能しないと民主主義は機能しない。今現在、政府による抑圧でメディアの萎縮が起り、立憲主義が危機に瀕している。ゆでガエルのように、気づかぬままに、自分たちの生きる世界を滅ぼさないように、自分たちの未来を守らなければならない。

今回の授業では、自らの人権を守るためには政治リテラシーを持ち、日本の民主主義を監視していかなければならないこと、国家権力の強さ、濫用可能性を意識し、国家に対する性悪観を、持つ必要があると学んだ。ニュースでよく見かける「強行採決」の文字、よく見かけること自体が異常なことで、それが異常と気づいていなかったこともまた、民主主義の危機だということなのだと感じた。選挙権を持つ一国民として、この国の行く末を意識し、また知識をつけ、私たちがきちんと選択をしていく必要があると感じた。

今回の授業で自分は国家、社会の一員であることに気づかされた。テレビのニュースでよく聞く、憲法改正法案や財務省の文書改ざん、森友・加計問題などに対して危機感を覚えたことはなかった。それだけ政治に無関心で、少しも知識を持ち合わせていなかったからだ。しかし、今回の授業のおかげで少なくとも政治と憲法、国民と国家の関係性について

コメント [U99]: 民主主義が壊れているかどうかを、常に注意していないといけません。民主主義は「監視」するものでなく、参加するものです。



での最低限の知識は知ることができたように思う。この授業を受けたのを機に政治に関して蚊帳の外ではなく、選挙権のある一国民としての責任感と危機感を持てるようになりたいと思う。まずは、ニュースなどを見るというような簡単なことから始めたい。そして次の選挙は知識を備えた状態で投票しに行こうと思う。

**コメント [U100]:** ニュースはなるべくテレビでなく、新聞から得てください。スマホやネットからのニュースだけで絶対終わらないように。

今回の授業で 1945 年のドイツの VTR を見た。そこから、国家がもし暴れば死者は 8 桁に及ぶ圧倒的な破壊力を持つことや、人間が国家権力を濫用する可能性が常々あることがわかる。これらを、認識した上で過去のドイツのようにならないために、市民たちがすべき方策として例を挙げるなら、民主主義によって政権を交代させること。その民主主義が機能するには賢明な有権者や報道の自由、知る権利などが必須となる。

**コメント [U101]:** それと、立憲主義。両方ともしっかり認識しましょう。

一方、日本では民主主義と立憲主義が危機になっている。その要因として、若者層の投票率の低下やメディアの衰退があげられる。また、知る権利を奪う危険性のある特定秘密保護法や公文書の破棄や隠蔽などがあげられる。これは、文民統制(シベリアンコントロール)の危機でもあるのかもしれない。

**コメント [U102]:** 文民統制(シベリアンコントロール)とは、武器を持っている軍隊が、武力を背景に政権を奪って統治を始めないように、国会議員である文民(軍人でなく)の大臣や首相に、軍隊の指揮権を持たせている仕組み。最近、自衛隊員がこの文民である防衛大臣の指示に従わない(イラク日報問題)、また国民の代表である国会議員を罵倒するなどの事件(小西参院議員)が相次ぎ、自衛隊の文民統制が揺らいでいます。文民統制が壊れると、軍事独裁政権になります。

今回の総科入門では、民主主義、憲法について、今どんなありさまなのかを学んだ。国の安泰には、国民が主体的に国家、政府の不適切な部分を知り、意見を反映することがどれほど重要かを、ビデオの惨劇をみても、よく分かる。特に印象に残ったことは、改竄、捏造、隠蔽がやってもいいこととして人々が慣れてしまうことの危険性についてだ。国民はメディアを通じて、世間の出来事の動向の多くを得ている。今、国会で複数の不正が後になって発覚しているだけではなく、これからメディアでも不確かな情報が出回る可能性があるとなると、国民の被害や他国との衝突の危険性が高まる。私は、日本の政治には興味はあるが、日常で友達と政治の会話をすることは少ないし、新聞で軽く見出しを確認すれば、自ら深く調べることはあまりない。結局関心が行動にはつなげていないのだ。まずは、今何が起きているかを理解し、投票の形で自分の意見を反映する必要がある。

**コメント [U103]:** 友達と話すとき、政治を気楽に話題にしてください。フランス人の多くは「おはよう」のあと、すぐ政治の話を始めます。

残酷な映像が今回の講義の中で一番印象に残っており、考えるべきところだと思った。アウシュヴィッツ強制収容所でたくさんの人が殺されたということは以前に社会の教科書で学習したことがあったが、実際に映像で見たのは初めてで、なぜあのような状況になったのかという背景を全く知らなかった。餓死やガス室に入れられて殺されるなど私の想像を超え

**コメント [U104]:** なぜホロコーストが起きたかについては、多くの要因があります。今回の授業では、邪悪な人間によって国家権力が濫用されたという観点で説明しましたが、ヒトラーはクーデターで政権を取ったのではなく、民主的なワイマール体制の下で、選挙で台頭しました。たので、ドイツ民衆が選んだ結果でもありました。民主主義は簡単に衆愚政治になり、危険な面も含んでいます。

る残酷さだった。あのようにならないようにするためには、ひとりひとりが政治に興味を持ち、政治を自分には関係ないものと切り離すのではなく、積極的に関わっていくことが大切だと感じた。また、「政治」といってしまうと遠く感じてしまいがちなため、小さなことでも自分のできることが考え、それがどのように政治参加に繋がっていくかを考えていきたい。日本は、選挙権が 20 歳から 18 歳に引き下げられ私も投票できる年齢となった。そのため、これからは持っている 1 票に責任を持ち、政治に参加していきたい。

私自身も無能な人間の仲間なんだろうなと感じた。一切新聞も読まないしテレビの少しだけ偏見のあるニュース番組を見るくらいである。私も地元の選挙の投票には参加したが、やっつけ仕事のように適当に考えて投票してしまった。

今回、若者が選挙に行かない理由とは何だろうかと考えた。ニュースを見たり政治関連の特集を他人事のように無視することで、いざ選挙が始まった時には知識がないから、当然興味の薄いものには手が出しにくいというのは自分の体験談だが、他の要因としては若者に対する労働の押し付けもあると私は考える。

では、どうすれば選挙に向かう若者が増えるのかを考えた。理想は、自分の意思で政治リテラシーをもっていることである。だが、他人から教えてもらったのではどうしても他人事にしか感じられなくなってしまう。国の危機感を感じ取る作業を教育の一環にうまく導入してみたらいいと私は考える。

今回の抗議で一番印象に残っているのは、毒ガス室で亡くなった人たちの映像だ。シャワーを浴びると嘘をついて人々を大量虐殺するなんてひどすぎるし、あってはならないことだと思う。幸い、今の日本政府はそんな真似はしていないが、もしそんなことが起こったらと思うとぞっとした。自分たちがいいと思って選んだ政府が、そんなひどいことをするのは耐えられないと思う。

私は今 18 歳で選挙権を持っている。最近の選挙が開始されたときはまだ選挙権を持っていなかったため、選挙に行ったことはない。だから、あまり選挙に関心もなければ、今の政府が実際にどんなことをしているのかも詳しく知らない。しかし今回の抗議で、政治に関心を持ち自分たちの政府を選ばなければ、映像に見たことが再び起こってもおかしくはないと思った。この講義をきっかけに、もっと政治に関心を向けて、あのような恐怖を二度と起こさない政府や政治を知り、選びたい。

コメント [U105]: 具体的に、どういうことでしょうか？

コメント [U106]: 若い世代をはじめ、多くの日本人が政治に関心がない大きな一因は、小中高の学校教育にあります。生徒らが政治の問題に関心もち行動するような教育をしてこなかったからです。その結果、無能で邪悪な政府があっても市民はそれに気づきませんから、その政権は安泰です。ちなみに現政権は、森友・加計問題は依然あいまいなままで、麻生大臣も辞めていませんが、今、支持率は回復しているようです。

高校の時も今回のような授業は何度かありましたが、今回の授業はそれに比べ物にならないぐらい為になりました。なぜかという、そこに「リアリティと具体性」があったからです。高校の時は、政治に対する意識や考え方について何度も学びましたが、それができなかった結果どうなるかやどうすれば政治が良くなるか具体的なことは教えてくれませんでした。

しかし今回の授業では、無能で独善的な指導者を私たちが選ぶとどうなるか、それを防ぐにはどうすればいいかをリアルな映像を交えて学ぶことができました。

先生のおっしゃった通り、あまり後味の良い授業ではありませんでしたが当たり障りのない高校の授業より大変ためになりました。

今回の授業を通して、若い世代が政治に関心をもたないことが、今まで自分が思っていた以上に危険な状態につながっていることが分かった。若い世代は投票率が悪く、政治に対する知識がない人が多い。なので、今の日本の民主主義や立憲主義の体制が崩れつつあることに気づいていない。人間らしく生きていくためには、政治リテラシーを持たないといけないが、今、政治リテラシーを持っていない、自分たちの人権の保障が危ぶまれている状況であることを理解して、人権が保障されず自分たちが危険にさらされる前に、政治リテラシーを持つことが重要である。そのために、メディアやネットの情報を気にかけないといけないが、圧力をかけられていたり、嘘であったりすることもあるので、正しい情報を自分で見極め、選び取る力も大切になってくる。

授業では、民主主義(悪い政府はかえる)が、今の日本は危機であるということを学んだ。民主主義に不可欠であるメディアが、政府によって抑圧されたり、メディア自らが萎縮してしまって衰退している。また、若者の低投票率も問題である。自分も含め、若者がもっと政治に関心を持たなければいけない。積極的にニュースや新聞に目を通すことが必要だ。といっても、新聞をとっていなかったり、最近はスマートフォンが普及して、テレビさえもあまり見ない若者が増えている。新聞やニュースを見るよう心がけることが一番重要だが、メディアがスマートフォンを通して若者に政治について関心を持ってもらえるようなことをすれば、若者も今よりは政治関係に目を通す機会が増えると予測する。例えば、SNSを利用する前に、ニュースを見ないと利用できないようにするというようなことをすれば誰でも目を通すきっかけとなる。

**コメント [U107]:** 私の狙いをしっかり受け止めてくれたので、よかったです。たまに高校に呼ばれて主権者教育としてこういう話をしています。もしあなたの出身高校の先生で、主権者教育に関心ありそうな人がいたら、私を紹介してみてください、基本的に無償で話をしに行きます。

**コメント [U108]:** 情報源は新聞が相対的に有効度が高いです。メディアリテラシーの力も大事です。

**コメント [U109]:** なるほど。

私たちは死にたくないし人間らしく生きたいのなら、「政治リテラシー」を持たなければならぬ。「政治リテラシー」とは、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力のことである。饗場先生が講義の中でおっしゃったように、この「政治リテラシー」をきちんと持てば、現在の日本が抱えている民主主義と立憲主義の深刻な危機から脱出することが可能であるという考えに私は納得する。

私たちが身近に政治について関わることができるのは、「選挙」である。若者の低投票率が問題になっている今こそ、インターネットや SNS を十分に活用すべきである。有権者は、電子メールや紙媒体を利用した選挙運動は禁止されているが、ウェブサイトを用いた選挙運動は行うことが可能である。政治に対する興味関心を持てるように、若者向けにインターネットや SNS で選挙について何か呼びかける、といったような取り組みが必要であると考える。

国家権力が暴走しないように歯止めをするのは私たち国民一人一人である。しかし、だからといって何もわからぬうちに国政に参加するだけ参加して適当な答えを出していたのでは国家権力の暴走と変わらないほどの損失を生み出しかねない。私たち国民一人一人が政治リテラシーを身に付け、何が正しいのか何を選ぶべきかしっかり考え、立候補者の演説や公約、新聞やテレビなどのメディアで発信されている情報が本当に正しいのか、ちゃんと根拠があるのか、またそれが信頼できるものなのか自分で調べ確かめた上で改めて考えて選ぶべきである。

コメント [U110]: はじめ何もわからないとしても、参加していくうちに学んでいけば、有益な答えを出せるようになります。

今回の授業では政治リテラシーの必要性や、市民と国家の関係から民主主義と立憲主義の重要性について学んだ。私はこれまで集団的自衛権をめぐる問題は政策自体が良くないものだと思っていたが、実際に問題なのは安倍政権が勝手に憲法の規制をほどこし立憲主義を否定していることだと知った。また民主主義を根幹から揺るがす公文書の改ざん問題や共謀罪についてもほとんど認知できていなかった。私がそれらに目を向けていなかったのは政治や政策がどこか遠いものだと考えていたからだ。これでは危機を感じた時にはもう手遅れになってしまう。私たちは政治に直接関わるができない、目に見えて感じることが難しい上、現在は入手できる情報も改ざんや隠ぺいが多くなっている。だからこそ必要な知識を学び、積極的に政治情勢に目を向けてどこで問題が起こっているかを察知し何が問題かを熟考し、そこから選挙で行動に移すことが重要だと考える。

コメント [U111]: 政策としては、集団的自衛権の問題は賛否両論の観点がありえます。詳しくは先述しているので読んでください。

現在の日本のメディアは、政府による抑圧・懐柔とメディア自らの萎縮により、衰退の危機にあると聞いた。このまま衰退すれば、政府に仕組まれたプロパガンダによって、市民は思想を変えられる。これによって起こったホロコーストの惨状の映像を見た。アメリカ兵の回想で「こんなことがここで起こるということは、他でも起こり得るということ」とあった。また、戦争遂行のためにプロパガンダが使われたことから、世界各国でプロパガンダはあるため、ホロコーストのようなことがいつどこで起こるかわからない。そのような惨状を起こさないために、都合よく大衆を動かすことを目的としたプロパガンダに踊らされてはいけない。今回の講義でも言っていたように、大衆は真実から目をそらさず、政治リテラシーを身につけなければならない。

私は、今回の講義の中で国家権力の強大さや重要性について考えた。日常生活の中ではあまり感じる事のない国家権力は、私たちにとっては、とても遠いものであると感じていた。しかし、講義の中でドイツの強制収容所で起こった大量虐殺について学んだときに自分たちがこれほど強大な権力と隣り合っていると知ると少し怖くなった。この強大な国家権力を縛るためにも私たちは、政治リテラシーを身に付けなければならない。現在の国会の状況も含めた日本について考えていきたい。また、憲法についての知識を身に付ける必要がある。昨今の問題である集団的自衛権も憲法が絡んだものである。安倍政権が憲法を半ば無視して強硬に推し進めているために問題となっている。一時の感情で反発している人も少なくないだろう。何の根拠もない批判はするべきではない。だから、私は、政治についての深い教養をこれからの大学生活の中で身に付けたい。

今日の授業では、民主主義と立憲主義がなぜ大切なのかについて学習した。その中で私が考えたことは国家権力の強大さである。国家は社会における利害の調整と解決という役割の政治を行うが、政治を行う上で必要なものは権力である。しかし、国家権力が不適切に行使され、国家が暴れだすとそれは圧倒的な破壊力を持つことになるかと学んだ。これに対抗するために私たち市民は、選挙で平和的に容易に政権交代が出来るがその一方で私たちが政府を判断する材料はメディアしかない。メディアが機能しないと市民が機能出来ないが、そのメディアを政府が抑圧したり、それにメディア自らが萎縮したりとマスメディアの機能が低下していることが分かった。私たちが判断する材料を政府自身が制限すれば、

**コメント [y112]:** 具体的にどのようなことを考えるのか書いてください。

**コメント [U113]:** 感情や感性で意見を表すのも、それ自体は大事です。安保法制では、たとえばママの会が子どもを産む性としての立場から直感的に安保法制に危険性を感じ、反対運動をしています。ただ、感性だけでは万人に伝わらないので、同時に、根拠に基づく論理的な考察もいるわけです。

**コメント [U114]:** ここはあわせて、「私たち市民は憲法で政府が好き勝手しないよう縛っておくが」という、文言もほしいところです。

政府の良いところだけをメディアが取り上げることになる。そして、私たちの知らない所で話が勝手に進んでおり、国家権力が不適切に行使されてしまうことに繋がる。

大学生であっても、どこかの企業に勤める社会人であっても、一社会に一市民として生きる私たち国民は、だれもが共通理解として持つておかなければならない政治リテラシーがある。

社会に生きる我々国民が持つていなければならない政治リテラシーが最近になり失われようとしている。政府による文書の改ざんや相次ぐ強行採決などにより、本来あるべき政治リテラシーがそこに現れておらず、それがこれからも繰り返されてしまえば、私たちの人権は政府や国家という強大な権力に脅かされることになってしまう。

私たち国民は、政治リテラシーについて今一度考え、本来行われるべき政治がどのようなものかを知る必要がある。若年層になるにつれ、政治に対する関心が薄く、投票率も低い。日本の政治を本来あるべき政治にさらに近づけるために、国民の、特に投票率が低い若年層に対して政治リテラシーを向上させるための政策を打ち出すべきである。

コメント [U115]: どうも政治リテラシーの意味や授業全体の流れがあまり理解されていないようです。

コメント [y116]: 政府は、自分たちにとって都合の悪い政策を取るでしょうか？

今回は政治リテラシーについての授業でした。私は今まで政治と聞いてもただ国が行っていることであり、自分とはあまり関係のない遠いものだと思っていました。しかし死ぬことなく人間らしく生きるには市民と国家の関係を知り正しい政治リテラシーを身につけることが大切だと学びました。第二次世界大戦のときの映像は衝撃的でしたが「ここで起こるならほかの場所でも起こる」というセリフを聞き、国家権力の強大さとその濫用可能性を知ることができました。政府が暴走し情報を伝えるメディアも政府により抑制され萎縮すると民主主義が機能せず大きな過ちが繰り返される可能性があると考えました。そうはならないように政治について関心を持ち知識を身につけるだけでなく、ゆでガエルにならないように自ら行動することが大事だと考えました。

今回の講義は民主主義と立憲主義はなぜ大事かという内容だった。私はナチスによって殺された人々の死体を埋める作業の動画を見て恐ろしいなと思いつつも、どこか自分とは関係のない遠い昔のことだと思っていた。しかし、今日の国家権力が邪悪な人、無能な人によって不適切に使われる可能性があるということを知り、今日の動画の光景は自分に近いところに存在していてもおかしくないことだと考えた。現在の日本は民主主義が危機

だという話の中の「メディアが衰退」という項目に最も危機感を持った。メディアが政府に加圧や懐柔される、もしくはメディア自らの萎縮によって衰退しているということは、私たちに入ってくる情報は必ずしも政府の全てを伝えるものではないかもしれない。だから私たちは政府に対して自ら積極的に関わらなければならないと考えた。それは選挙に行くことや政治リテラシーを持つことである。

ナチスのユダヤ人迫害が悲惨なものだということは知っていたが、実際にブルドーザーで遺体を集めたり、穴に放り投げられたりしている映像を見ると、人権がないということは本当に恐ろしいものだと感じた。この迫害は、政治の機能の価値配分、権力が不適切に行使された結果であり、どの国にも起こりうることだと知って、市民は国家の前に脆弱なのだからせめて、国民が持っている権利である選挙権を活用していきたいと考えた。ナチスは、ヒトラーの巧みな演説で国民が支持し、生まれたものであるから、政治に関心をもって懸命な有権者となり、ユダヤ人迫害のようなことは起こらないようにしなければならない。

コメント [U117]: そうです、いくら民主主義の制度があっても、それを使う市民が賢くなければ、結局、意味はありません。

政治に関心と知識を持ち、行動しなければならない。みんなが政治に参加しなければ、民主主義は成り立たない。政治は、首相や大臣が行う。首相や大臣は、神ではなく人であるから、悪い人や無能な人もいる。そういう人に国家権力を持たせてはいけない。国家権力を濫用されれば、被害は大きい。だから、憲法で行動を制御しなくてはならない。憲法は市民が守るものではなく、国家が守るべきものなのだ。だが現状は、政府は憲法を軽視している。臨時国会が開かれていなかったり集団的自衛権を認めたりしている。民主主義は、悪い政府を変えることができる。だが、若者の3人に1人しか、投票していないという現実だ。市民が政府を判断する材料として、メディアがある。メディアが機能してないと、民主主義は機能しない。今、日本のメディアは衰退している。これらの問題は、政治リテラシーがあれば回避できるのだ。

コメント [U118]: いないと

今回は政治リテラシーがどうして必要なのかということについて学んだ。強大な国家権力である政府を縛るルールがきちんと機能していれば悪い政治にはならないと仰っていたが、それは違う。ナチスは、国民投票を行い政府も政治も正常に機能したうえで第一党になり、ヒトラーはトップに君臨した。しかし結果は目を背けたくなるような悲惨なもので

あった。民主主義が完璧ではないことは明白であり、国家がルールに縛られているだけでは不十分である。

今日の講義は饗場先生から政治について学んだ。

今回の講義で私は二点のことが特に印象に残っている。

一点目は政権の乱用についてである。第二次世界大戦ごろナチスのヒトラーがユダヤ人を無差別に残虐な方法で殺戮していった。そのようなことをした理由はユダヤ人は不利益をもたらす人種であると判断していたからである。しかし私は、それだけが原因ではないと考える。なぜなら、国のトップという立場を利用し政権を濫用したのが一番の原因であるからだ。このように、政治に不適合な代表者を排除するためにも、国民一人一人が政治に熟知し、立ち上がり行動を起こすことが必要であると考える。そうすることにより、今回の授業で鑑賞した残虐な映像のような状況になることはなく、平和な世の中を築くことができるからである。

政治とは社会における利害の調整だと学んだ。今まで自分は、政治とは国の権力者たちが行うものだと思っていたが、確かにたくさんの人々が生活している社会において、利害がぶつかるのは当たり前のことで、それを調節する機関は必要不可欠である。また、授業で見た映像に、たくさんの死体が埋葬されるシーンがあった。痩せこけ服もまともに着ていないような人達は、それだけでも異常なのに、ブルドーザーで押して運ばれ、まるで人間として扱われていなかった。同じ人間同士で権力の強さによってこうも扱いが違うのは酷すぎる。私は今、平和な世の中で平和な国で生活が出来ているために、想像もしていなかったが、どの国でも国家権力を持っているのは同じ人間であり、濫用の可能性は常にある事を忘れてはならないと改めて考えさせられた。授業で習った「ゆでガエルの危機」から脱するためにも、きちんとした知識として政治リテラシーは持たねばならない。

今回の授業で国家権力が人間に不適切に行使される可能性が日本でも起こりうるということだと感じた。現在、日本のメディアは以前に比べ政府の統制を受けている。しかし、それはもちろんわかりやすい形では公にされていない。大半の人がメディアが昔に比べて統制されていることを知らない。その事実さえ知らず、そのままメディアの情報を鵜呑みにする。そんな中、政治界では共謀罪などを強行採決され、どんどん民間とはかけ離れたと

**コメント [U119]:** 先述していますが、授業ではヒトラーという特異な人物の観点で説明しました。確かにホロコーストの要因には、選挙で民主的に選ばれたナチス政権という観点があります。要は民主主義が形だけあるのみではダメで、それを使う市民の側にかかっているわけです。市民が賢ければ悪い政治になりませんが、市民が愚かであればひどい政治を招きます。民主主義と衆愚政治は紙一重です。衆愚政治になるくらいなら、有能で善良な人に独裁政治をしてもらおうほうがよっぽどマシです。でも有能で善良な人かどうかは政治をやらせてみないとわからないし、後から豹変するかもしれないので、実はこの人は無能で邪悪だったとわかった際に、簡単にその人を交代させられる民主主義のほうが、結局良いわけです。民主主義が完璧でないことは、あなたが指摘する通りですが、でもそれしかないだろうという結論に行き着きます。

また「国家がルールに縛られているだけでは不十分」というのもその通りです。現に「立憲主義って知らないよ。僕ちゃん、やると思ったらやるんだもん」といった政府が現れたら、憲法があっても実質的に止めるのは困難です。憲法裁判所があれば、違憲の法律は止められますが、日本にはありません。その場合、要は、「立憲主義も知らない政治家を選んではいけない、選挙で交代させないといけない」という民主主義における有権者の判断の問題に戻ってきます。

**コメント [U120]:** 「一点目は」と書くなら、「二点目は」「次に」など、はっきり文章を構成しましょう。



ころで勝手に悪い方向に進んでいる。これ以上こんなことにならない為には政治リテラシーを持つことが重要だ。どのようにすれば国民全員が政治リテラシーを持つようになるのだろうか。今現在、とても全員が政治リテラシーを持っているとは言えない。メディアを通して政治リテラシーを持つとすれば良いのだろうが政府によって統制を受けている現在では難しい。政治リテラシーをもつように活動を広げるべきだ。

**コメント [U121]:** 日本のメディアは現政権の下で、衰退していますが、世界的に見れば日本のメディアはまだまだ良いほうです。今回の財務省の改ざんを暴いた朝日新聞のスクープは、歴史に残る業績です（だから政権は朝日を目の敵にするのですが）。新聞を複数紙読むことで、かなり政治リテラシーを高められますから、がんばりましょう。

私は今回の講義を聞いて、政治は社会における利害の調整・解決方法であり、政治が機能するには、価値の配分と権力が必要であると分かった。

また、普段は意識していなかった国家の権力は実は強大であり、私達は国家権力の本質を認識する必要があるという事が分かった。

また、国家を縛るために憲法があるのにも関わらず、現在の国家は憲法という檻から飛び出してしまうという非常に危険な状態であるという事が分かった。

私は、今回の講義を聞いて民主主義を守るためには現在の社会を知り、主体的に情報を得ようとする気持ちが大切であると分かったので、選挙は必ず参加するようにしようと思

今回の講義で、なぜ私たちは政治リテラシーを持つ必要があるのかがよくわかった。

アウシュビッツ強制収容所での現実のビデオを見て、悪い政府に国家権力を濫用されると、これほど恐ろしい結果になるという現実が目に焼きついた。

現在の日本で若者の国民投票の低さやメディアが真実を国民にありのままに伝えられなくなっているという状況はあり得ないことだ。そのほかにも、知る権利を奪う特定秘密保護法や、萎縮社会を作る共謀罪など、様々な深刻な問題が生まれている。

民主主義と立憲主義が戦後最大の危機となっている今の日本の状況を今の私たちが変えていこうとするには無理がある。しかし、少なくとも、1人1人が政治に関する関心、知識、行動力という政治リテラシーを持つことは重要である。政治リテラシーをきちんと持って、どんな政府にも従っていくのではなく、政治に関して自分の意見を持てる人になることが大切である。

**コメント [U122]:** いやいや、無理じゃないですよ。授業で説明したような話は、誰でも理解できる内容です。わかりやすい話ですから、多くの人に伝わるのはそんなに無理ではありません、機会さえあれば。

私は、今回の授業で権力とは恐ろしいものだと思った。授業中の映像であった、亡くなった人をブルドーザーで運ぶ様子を見て、邪悪な人や無能な人に権力を託してしまうと死

に方やその後もこんなに惨いことになってしまうのかと**思った**。また、その骨と皮だけになったような遺体を見て、生き方すらも自由にできないことに恐怖を覚えた。そう考えると、私たちの持っている選挙権は誰に投票するかによって私たちの人生やその生き方に関わる重たくて大事なものである。間違った投票で自分の未来を潰さないためにも私たちは自分の持つ一票の大切さを自覚すべきである。そして、政治リテラシーを持ち、人づての情報ではなく自分の目で見て、投票すべき人を見極めるべきである。

私は今まで、選挙に行かないことがそこまで重要なことだと考えていなかったし、実際に行かなかったこともある。しかし饗場先生の授業を聞いて、選挙に行かないこと、政治に興味を持たないことの危険さを改めて**感じた**。私たち一人ひとりが政治は自分たちの問題であるという意識を持たなければならない。日頃ニュースを見ていて、私にとって政治は難しいと感じることがほとんどで、そこで問題放棄してしまうことがよくある。まずは自分の住んでいる**地域の問題から目を向けていきたい**と**思う**。自分の住む地方をこれからどう変えていきたいか、そのように考えていくと、なら誰に政治を任せるべきかということが見えてくる。そう考えると、政治は果たしてそこまで難しいものなのかと思えた。興味を持たず、自分には関係ないと思っていたから難しく感じていたのだろう。政治はそんなに複雑なものではないから、自分もこれから積極的に参加していこうと**思った**。

ナチスの動画を見て同じ人間の所業とは思えなかった。ただ人間は洗脳されると、こんなことでも起こせてしまえるという点が、自分にでも起こり得ることなのだと思うと背筋が凍る。また今の日本は強行採決などが行われていることが常習的になっているせいで、常識が悪い方向に様変わりしていることにも気づかされ恐怖であった。私たち一般人に真実を伝えるべき**機関が**の機能が麻痺しているとなると、一体私たちは何から真実を受け取れるのであろうか。報道までもが政府の役人のフィルターにかけられた内容であるならば、これからの日本は本当に政府人にとって都合のいいことだけがはびこり、独裁に近づいていってしまう。今は政府との間に憲法というものが存在するが、それさえも揺らぎかねない国会が開かれている今、選挙権も18歳に引き下げられ、より一層主体的に政治リテラシーを身につけるべきである。

政治リテラシーと最初聞いてその言葉は少し聞いたことがあったが、よくわからなかつ

**コメント [U123]:** 地域の問題からまず、興味を持って入っていくのはいいですが、根底には強大な国家権力の怖さがある点をふまえてください。加計問題でわかるように、地域（今治）に大学を作って活性化させるという地域の問題であっても、国家権力が恣意的に使われるわけです。

た。この授業で政治リテラシーを持つことは民主主義社会にとってとても大事であることがわかった。政治リテラシーが無いと報道に左右されたり、自分の考えを持つことができない。またこの授業でいまの政治家たちがしていることや、森友、加計問題のニュースの本質がわかった気がする。明らかな不正を堂々と知らないといい、それが曲がり通ってしまう今の社会は民主主義ではなく、一権集中の独裁社会に近いものではないかと思った。しかし、それは政治家が悪いのはもちろんだが、若者を中心とする政治リテラシーの無さも原因の1つであると思った。だから、この授業を通して政治リテラシーについて考え、自分も政治リテラシーを身につけたい。

コメント [U124]: まかり

コメント [U125]: 一見政治家が悪いように見えますが、今の日本ではその政治家を選んでいるのは有権者ですから、つきつめれば悪いのはわれわれ有権者です。

コメント [y126]: 具体的にどんなことを考えるのか書いてください。

私は、今回の授業を通して日本や世界で起きていることを自分からよく学び、政治リテラシーを高めることが必要であると考えた。

人間が複数いる社会にとって政治は必要不可欠なものである。しかし政治は不適切な人間が行った場合国家権力を不当に行使されてしまう場合がある。その代表的な例がナチスドイツのホロコーストだ。

授業で見た映像から、国家権力は強大であり濫用される可能性があることを学んだ。このような出来事を今後起こさないために、私達は強大国家権力性悪観という国家権力の本質を理解せねばならない。

また、日本は民主主義と憲法から成り立っているが、現在これらが危機にひんしているというのだ。本来市民側に立たねばならないマスメディアが、政府の干渉によって機能が低下しつつあり、安保法制で憲法を軽視する面も見られている。これらの状況を奪還するためには、まずは政治に関心を持ち政治リテラシーを高めていくことが最も重要である。

「私たちは死にたくないし、生きるにしても人間らしく生きたい」これは、私たちが人間である限り不変のものである事実であろう。しかし、これは時として歪められることが正当化されてしまう。その最たる例が、ナチス政権下のドイツ社会である。その社会に反対する声を潰すのが「正しい」とされる。これは国家権力の強大さと濫用可能性が如実に表れた悪い例だ。

このような社会にならないようにするためには、私たちが「正しい社会とは何か」ということを理解し、その方向に社会を持っていく動きをすることが方法である。昨年、18歳選挙が始まり、私も投票に行った。しかし、そこで印象的だったのは高校生の私が投票に行くと投票所の職員の方に驚いた顔をしたことだ。後日新聞で見ると、20歳未満は3人に1人しか投票に行っていない計算になったとあった。これは、私たち若い世代の意識もそうだ

コメント [U127]: 18歳は比較的投票率が高いですが、19歳から20歳代になると3人に1人という計算。

が、私たちの親世代の投票率が低いこともその要因だと**思う**。

今日の講義では、政治リテラシーについて学んだ。

そして、人権の保障や、個人の尊厳を守るために自分に何ができるのか**考えた**。

また、政治リテラシーについて学んだ上で、18歳になった今、自分にその政治リテラシーが備わっているかどうか**考えた**。

政治リテラシーとは、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力であると学んだ。

国家権力の強大さ、国家権力の濫用可能性という国家権力の本質を認識し、その認識を持った上で、私たちはどう行動すべきなのか、どう行動することができるのか。**その方策の一つに、悪い政府は変えるというものがある。**日本は民主主義で、選挙によって平和に容易に政権交代することができる。

私は、誕生日が遅いため、まだ選挙に行ったことがない。

しかし、選挙に行く前にこの講義で政治リテラシーについて学び、映像で見たような悲劇が起こらないようにする方策の一つとして選挙という存在を知ることができた。

**今日の授業を聞いて、複雑な社会情勢を多面的に理解し、正しい判断をする力の必要性を**実感**した。**ホロコーストは誰もが悪いことだと考えるが、ただ悪いと言っても同じことを繰り返してしまうかもしれない。ヒトラーの人物像、理想とした人物、時代背景、きっかけなど、様々な情報を集め、客観的に理解をしてから初めて悲劇を繰り返さない世の中をつくっていけると思った。情報収集の手段として、メディアが正確に情報を拡散することも必要であるため、政府による抑圧はあってはならないと**思う**。

今回の総合科学入門講座を受けて政治についての関心をこの大学四年間でもっと付けていかなければいけないと**思いました**。僕たち大学生は、選挙権を持っているため自分たちの意見を政府に反映することが出来ます。しかし、実際若者の選挙率は高くなく選挙権を持っていながら投票しないという人が多くいます。民主主義では国民が、悪い政府をいい政府に変えていかなければいけません。誤った政治の知識や判断は、今回ビデオで見たナチスドイツの大量虐殺といった恐ろしいことを引き起こしてしまうかもしれません。絶

**コメント [y128]:** 具体的にどんなことを考えたのか書いてください。

**コメント [U129]:** もう一つの方策、政府をあらかじめ縛っておくという立憲主義も忘れず。

**コメント [U130]:** そういう趣旨の授業ではなかったのですが。

対にそんなことは起こらないと多くの人が言うかもしれませんが、その少ない可能性をゼロに出来るように私たちは正しい政治リテラシーを付けていかなければいけないと分かりました。

**コメント [U131]:** 可能性をゼロにするというより、可能性は常にあるという前提で、どう危機を自覚し、どう動けるか、という問題です。南海トラフ地震などの可能性をゼロにはできません。

今回の授業では民主主義と立憲主義はなぜ大事なのか、私たちが人間らしく生きるためにはどうしたら良いかについて学んだ。授業中に見たホロコーストの映像から、このような残酷な出来事を単なる過去として捉えるべきではないと**思った**。国家権力が暴走して誰もそれを止めることができなくなったら現代でも大量虐殺は起こりうるのだ。それを何としてでも防ぐために民主主義と立憲主義を大切に私たちが政治リテラシーを高めていかなければならない。その中でも私たちに今できることは、政治に関心を持ち人任せにするのではなく選挙に参加することだと考える。若年層の選挙の参加率の低さを改善していくことで民主主義が本来の役割を果たすのではないかと**思う**。

今回の授業では、民主主義と立憲主義が市民の人権のために必要なことと、民主主義と立憲主義の危機から抜け出すには政治リテラシーを持たねばならないということ学んだ。

正直に言うと、私は政治への関心が薄く、ニュースを見ても聞き流して大まかにしか理解していなかった。それゆえ、憲法は最高法規であるにもかかわらず、安倍政権は憲法を軽視しているということも知らなかった。現在の日本は若者の**得票投票率**が低く、私のように政治に関心がない人が多くなっている。しかし、今回の授業を受けて、このままでは日本が政府の思うままになり、民主主義も立憲主義も崩壊してしまうのではないかと危機感を覚えた。だから、**政治に関するニュース**をもう少しじっくり見て、考え、自分に出来ることをやっていきたい。ただ、**今自分にできることが投票することしか思い浮かばないので**、絶対に投票はしていきたい。

**コメント [U132]:** 新聞を複数紙、読むようにしましょう。

**コメント [U133]:** 他にもできることは多くあります。先述していますのでそこを読んでください。

徳島大学で何を勉強しようとも総合科学部でなにを専攻しようとも私たちが日本という国家、社会の一員であることに変わりはない。

死にたくないし人間らしく生きたいなら政治リテラシーを待たねばならない。これは政治に対する関心を持ち知識を得て行動する能力のことである。

政治リテラシーを高めねばならない理由は市民と国家の関係性を知ればわかる。しかし、いざ、政治とは?ときかされると答えにくい。例えば地球上に自分一人しかいないなら政治は

ない。言い換えると、複数の人がいると政治があり、利害がぶつかる。政治とは社会における利害の調整・解決なのである。誰が政治を行うかと言うと政府が政治を行う。国家としては首相や大臣が行う。また政治家は人間であり神様ではない。そのため邪悪、無能な人もいる。そのシンボルとも言えるのが独裁政治の頂点- ヒトラーである。ドイツの収容所の研究者の回想に出てきた「こんなことがここでも起こりうるということは他でも起こるということです」という言葉はとても大切であると感じた。私はそのような目にあいたくない。ならどう生きるか。まず国家権力のこの本質を理解すること。圧倒的な破壊力がかん用される強大な国家権力性悪観がある。

コメント [U134]: 濫用

今回の総合科学入門講座は、政治リテラシーについてであった。政治とは、社会における利害の調整・解決のため、人間らしく生きるためにあるのだ。しかし、もし政治を行う人が邪悪な人であって、強大な国家権力を握って不適切に行使すれば、映像にもあったような惨劇につながる可能性もある。現在そういったことが今の日本の政治において起こり得る危機にある。原因として、政府と私たち市民をつなぎ民主主義を機能させるメディアの衰退や投票率が低いこと(特に若者)などが挙げられるが、どれも私たちの政治的無関心や参加することへの消極性が関係しているように感じた。私たちの政治に対する関心や知識が不足していると、政府の行動を監視したり制御したりする民主主義の機能が働かなくなり、国家権力を濫用されてしまう。そのために私たち一人一人が政治リテラシーを高め、責任と知識を持って、政治に積極的に参加していく必要があるのだと考える。

今まで安倍政権に関してそんなに疑問を持つことがなかった。貧富の格差が大きくなっているとの声があるとはいえ、阿部安倍さんが首相になってからは日本の経済は上向きの方だし、なんだかんだで強国であるアメリカと仲良くやっているから、日本は核の傘下で安全にいられるという認識があったからだ。いつもなんとなくニュースをみて、何故そんなに森友、加計問題を取り上げているのか、公文書の紛失がどれほど重大な問題なのかを考えなかった。今回の講義を聞いて、まさしく今の自分の状態が政治リテラシーに欠けているといえる。今、ニュースで取り上げられている問題に、それほど考えることがないということは、民主政治を維持していく上では大変危険なことだ。もっと自分は、今の政治に関心を持ち、あらゆるマスメディアから情報を、集め、自分なりの考え方を持つ必要がある。

コメント [U135]: わかったことは自分だけでとどめず、親や周りの人とも共有できると思います。

政治とは何かをこれまで深く考えたことがなかったが、自分たちが生きていく社会なのだから、政治と自分は無関係だという考えを改めなければならないと**思った**。実際、私は、死にたくないし、人間らしく生きたいと考える。その上で、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力である「政治リテラシー」を持たなければならない。また、社会で平穏に暮らすには政治が必要で、政治が機能するには、価値の配分と権力が必要となる。私たちは、その強大な国家権力は政府によって濫用される可能性が常にあるという強大な国家権力性悪観を持たなければならない。なぜなら、政治を行うのは政府(人間)であり、神様ではないからだ。政治を行う人の中には、邪悪な人や無能な人もいることを忘れてはならない。そして、一人一人が「政治リテラシー」を持ち、「民主主義」と「立憲主義」の仕組みを堅持していくことが平穏な社会を形成するうえで重要である。

今回の講義は、民主主義と立憲主義はなぜ大事かというテーマであった。私たちの大元の大前提として「死にたくないし、人間らしく生きたい」という思いがある。そのためには、政治リテラシーをもたなければならない。まず、政治とは複数の人がいる場合に生じる利害の調整・解決である。この政治が機能するためには1 価値の配分と2 権力が必要だ。しかし、人間には邪悪・無能な人もいる。もし、2の権力がその人たちに乱用されたら圧倒的な破壊力がある。それを防ぐために私たち市民は強大な国家権力性悪観をもったうえで、1 悪い政府は変える=民主主義、2 政府の行動を縛る=憲法の二つの方策を活用しなければならない。しかし、今これらの方策が危機に瀕している。

私は今まで「政治と宗教には関わらないほうが無難だ」と感じていた。しかし、その考えこそが民主主義と立憲主義の危機を招いていると分かり、自らの選挙権を生かさなければならぬと**感じた**。

本日の講義は、政治リテラシーを高めようという題でなされた。この講義を聞くことで、正直ゆでガエルの危機ある社会から目をつぶりたい衝動に駆られた。しかし、それと同時に、人権保障を維持するためには目を背けないで向き合うことが必要であると理解し、政治リテラシーを高めたいと**思った**。

ゆでガエルの危機を作る要因の中には、利点と欠点があるために解決の難しいものが多く危機の大きさを知った。特に、強行採決は独裁的で危険な手段だと思った。確かに、多数決では多数派の意見が採決されるものだが、少数派の意見を見捨てるのは良くない。政府の力は想像以上に大きく、憲法が改正されるならば、やはり**第三者となる外国人**

に委ねるべきである。

国民はなぜ政治に関心を抱かなければならないのかを、今回の授業で理解した。なぜなら、政治は私たち人間の生活に常に影響を及ぼすことがわかったからである。

今回、複数回言われた政治リテラシーだが、これがなければ権力の暴走を止めることができないし、最悪の場合は気づくこともできない。一つの例として、ナチスのホロコーストは、国家権力のあまりの強大さによって生み出された悲劇である。ヒトラーという人間のみを見れば必ずしも全てが悪というわけでもないのだろうが、政治という観点から見れば邪悪な人間として扱われる。そこで、国家権力の暴走に対して、市民は政府を監視しなければならない。しかし、政府の行動全てを頭ごなしに否定するのではなく、しっかりと吟味し、何が良く何が悪いのか、批評することが重要である。

これまで「選挙へ行け」とか、「平和は大切」とか、「戦争はいけないもの」とか何となく当たり前のことのように感じていたことが、改めてなぜそれが大切なのかということがよくわかったように思う。今回の授業の内容は感覚的にはそんなところだろうなということとは分かってはいたものの、実際に言葉に表されて整理されると政治に参加することの重要性がよく分かった。また、民主主義、立憲主義という単語を日ごろから耳にしているも本当の意味については無知であったから、「悪い政府を変える=民主主義」、「政府の行動を縛る=憲法、立憲主義」と繋げられるとストンと腑に落ちた。自分の中に持っていた「しなくてはいけない」という概念が初めて輪郭を持ったように感じる。

ホロコーストの映像を見て、国家が暴れば死者が7.8桁になることもあるという圧倒的破壊力や、その国家権力を政治は神が行うことができないのだから無能で邪悪な人間が濫用する可能性があるということがわかった。それを阻止するために民主主義では選挙で悪い政府を変えることができると言っていたが、最近では政治家が公文書を改ざんしたり、平気で嘘をついたりしているのをテレビやニュースでよく目にするようになり、選挙で選ばれた人たちだからといっても、とても信用できない。政府の行動を縛るはずの憲法も、政府の人間が平気で軽視したり、都合よく解釈改憲したりするので、このままではいくら市民が「民主主義」や「立憲主義」の仕組みを堅持しようとして常に関心を持ち、知識を得て行動しても政府にかき消されて、悪い政府は変わらないのではないかと思った。

**コメント [y136]:** これはルソーの『社会契約論』で書かれていることですね。「哲学思想の基礎」では、無造作に「外国人に任せればよい」という話ではないことを説明しましたから、しっかり復習しておいてください。(山口)

**コメント [U137]:** もちろん、政府の政策で評価できるものもありますから、頭ごなしに全否定してはいけませんが、政府が行使しうる国家権力に対する警戒は最初から常時、持っていないといけません。

**コメント [U138]:** 授業の狙いがうまく伝わってよかったです。

**コメント [U139]:** この点、先述したので、そこを読んでください。要は憲法を守らないような政府は市民が選挙で落とすしかありません。



今回の講義は今最も議論されているといっても過言ではない内容であった。私はこの手の話題に強い関心を寄せていた時期があったが、その時から自分の中で正解が見いだせないでいた。ある人は改憲は今の時代に合っており必要なものであるとする一方で改憲は日本を戦争に導く悪法であるとしている。はっきり言ってどちらの言い分も筋が通っており間違っていないと感じる。これは私の「政治リテラシー」がまだまだ低いせいであろう。もっとニュースや新聞に目を通せばいいとよく言われるが、最近では「偏向報道」などといわれメディアが叩かれていることを考えると本当にメディアの情報を信用していいのかという疑いが拭えず結局どうすればいいのかわからない。とりあえずの所は様々な報道や本、時にはネットの極端な意見なども見ながら自分の中で正解を模索していくことが今自分ができる最大の政治参加だ。

私たちは死にたくないし、生きるにしても人間らしく生きたい。そのために私たちは政治リテラシーを身につける必要があるということについての授業だった。授業で政治リテラシーとは「政治について関心を持ち、知識をつけ、そして行動すること」であると学んだ。そのことについて私はただテレビのニュースやネットの記事の情報を鵜呑みにして、政治について分かっているつもりになっているだけではいけないのだと思った。私たちは一人の国民として投票権を持っている。つまり私たちが政治リテラシーを身につけるためには普段から政治についての情報を集めることに加え、国民投票や住民投票の際には実際に投票するという行動に移さなければならないのだと考えた。

本日の授業では、「政治リテラシー」について学んだ。

今、我々が「政治」「政治家」という言葉を聞くと、あまり良いイメージが浮かばないのが現状である。その理由として、授業であったように、民主主義が危機に陥っているからである。政治家の失言や、文書の改竄、隠蔽などの不祥事が目立って取り上げられている今、政治について前向きに考えるのは難しいというのが本音である。

しかし、だからこそ、我々が政治について真剣に考えなければならない。18歳になり、選挙権を持った今、民主主義が脅かされているのは私たちの責任でもある。若年層の投票率の低下が顕著に見られるなか、私たちのとるべき行動は明確なことが一つある。それは、言わずもがな投票に行くことである。日本の政治を動かす人物が不適切な権力を振りかざ

**コメント [U140]:** 社会科学は多くの観点から多くの正解がありえます。改憲の問題も、いろいろな主張がありえますから、なるべく多面的に、かつ論理的に考えていきましょう。「中国、むかつくから」というような感情論は論外です。その上で、判断は最終的には自身の価値観に行き着きますが。憲法食堂（7月6日金曜 18:15 から地域創生・国際交流会館）でもそんな話をしますのできてください。

**コメント [U141]:** 日本の新聞の報道は、まだ、大体信用できます（一部、政権寄りの新聞はその情報に注意する必要がありますが）。

**コメント [y142]:** この授業では、情報の出典を確認する、情報源が何者かを確認する、複数の情報源を確認する、など、具体的な方法を講義しました。それを繰り返しているうちに、判断力が身につけてきます。

すと、たちまち我々の人権が脅かされてしまう。有権者の一人として、政治について考え行動することは必要なことである。

今回の授業で、私は、今まで政治について自分が興味を持っていなかったため、政治が社会における利害の調整、解決の意味であることを知らなかった。現在の日本は政府が政治を行うという形で成り立っている。今回の「18歳成人」も、**議会が決めたことであり、民法であるからといって、国民の意見を取り入れないというのは、少しおかしい**。だから、こういうときにこそ国民投票に代わる、国民が承認するかどうか、**の投票**を設けることによって、国民中心の政治に変えるべきだ。誰しも、18歳で自分が大人であると自覚するのは難しいし、今の議員さんはほとんど20代後半で考え方も若者と異なるはずだ。もし、この「18歳成人」の件で、国民投票らしき投票があれば、結果はどうであれ、若者自身の意見を受けつつももらえるという信頼が少しでも湧くのではないか。そして、それが選挙などの投票率向上につながると考える。

**本日は戦争と平和について学んだ**。本日はナチスのユダヤ人大虐殺の映像を流していた。その映像はなかなかショッキングな内容で、死体がブルドーザーで運ばれていて、ゴミのように穴の中に捨てられていた。本日流してもらった映像は千村の悲惨さを伝えるには十分すぎるほどの材料であった。しかし、その映像をお昼前に流すのはどうであろうかと**考****える**。なぜなら、あのむごたらしい映像は食欲の失せるものだからである。

そして、本日は憲法第9条と集団的自衛権の関係について学んだ。集団的自衛権は権利としても認められているし、防衛に関しては必要なものであるのでそれ自体が必要ないかと問われれば私は何もいうことができない。しかし、その法律ができる過程で憲法の解釈を変えて十分に話し合わずに成立したことに関しては私もそれがいけないということに関しては賛成である。

最初に映像をみたとき、とても残酷なことが過去に起きたんだな～とあまり身近なことに感じませんでした。しかし、その映像の音声中に、過去に起きたことなんだから現代の私たちにも起こりうることである。という発言をきいてこのことは**他**人事ではないと感じました。

またこのようなことが起こる原因は国家権力の暴走であり、私たちや政府がまきちんと

**コメント [U143]:** 私たちに選ばれた議員が国会で民法改正を決めるのですから、仕組みとしては国民の意見が反映していることとなります。18歳成人は国際社会では普通ですが、大人の自覚が持ちにくいというのは日本の若者の精神年齢の問題でしょうか。

**コメント [y144]:** 「何でも国民投票」は危険です。「哲学思想の基礎」で取りあげましたが、受講してないですか？坂井豊貴『多数決を疑う』岩波新書を読んでみましょう。(山口)

**コメント [U145]:** 戦争と平和の問題は22日の授業です。15日は民主主義と立憲主義の問題です。

立憲主義や民主主義を堅持し、制御しなければ再びこのようなことが起きてしまう可能性が十分にあるのだと思うと国民一人一人がきちんと考えて行動、生活すべきであると思いをしました。

しかし、マスメディアの機能の低下というのは非常に深刻な問題点であると思いをしました。マスメディアはいわば政府と国民を繋ぐ重要な仲介役であるのに、その機能が萎縮し、報道の自由が衰退してしまうと、政府にとって都合の良いことだけ報道され、国民に正しい情報が伝わらないという事態が起きるってしまうからです。

政治への関心低下の原因は、野党の無能とメディアへの不信にある。そもそも野党が与党を攻撃する目的はより良い政治の実現にある。しかし、野党の発言は「〇〇は辞任しろ」「〇〇には反対」ばかりで、有効な議論がなされているとは思えない。政策論争もせず、誰かを辞任させるのが目的となっている。今の政権に不満はあるが、支持すべき人物はいない。この状況が自民党への消極的賛成を支えている。メディアが政権の反対者であらねばならないことは先の大戦で痛感させられたが、それでも今の野党偏重のメディアは擁護できない。与党を批判するため野党の過失を無視するのは、やはり手段と目的をはき違えている。「メディアの情報は信頼できない」として、若い世代はテレビよりも Twitter の情報を信用するようになってきているが、Twitter の情報が匿名の人物の主観に基づいている事実を失念している。野党とメディアの信頼を回復しなければならない。

饗場先生の授業は「国際政治学入門」で似たような内容の授業を受けたが、改めて戦争が非人道的で残酷なものなので二度と起こってはならないことだと実感した。日本は唯一の原爆の被爆地で甚大な被害を受けたが、それと同等にユダヤ人の迫害もひどいことだった。何の罪もない人々が収容され、毒ガスで殺されたりして、やっている人間は本当に同じ人間なのかと疑った。死体が重いのは分かるが、押して運んだり、埋葬するときも投げ入れたりして見るに耐えなかった。子ども、女性関係なくあんなにも痩せ細っている姿を想像するだけでも胸が苦しくなった。罪のない人間が迫害されたり、殺されたりするのはあってはならないことなので二度と起こらないように世界のすべての国が平和に協力し合うべきだと思ふ。

私たちはこれから社会で生きていく上で、政治リテラシーを高めなければならない。政

**コメント [U146]:** 確かに最近「〇〇は辞めろ」という問題がよく起きていますが、これはそもそもそれに値する失態が事実、起きているからですね。意味なく、のべつ幕なし「辞めろ」と野党が言っているわけではありません。たとえば、あのセクハラ次官は辞めて当然でしょう。また公文書改ざん事件の財務省のトップ、麻生大臣も辞めて当たり前です、前代未聞のありえない不祥事です。でも麻生さんは辞めていませんから、当然野党はその主張を続けます。

「政策論争もせず」という面も確かにそうですね。本来、米朝・日朝関係や、貿易関税やTPPなど大事なテーマがあるのに、あまり政策の議論ができていません。しかしそれは、そもそも、うそを言う、文書を改ざんする、隠すような相手とは議論ができないからです。失態があったのなら...

**コメント [U147]:** 6月27日のキャリアプラン入門の授業は聞きましたか。そこで説明したように、政府と市民との関係の非対称性(国家権力の前に圧倒的に脆弱な市民)を知れば、メディアは市民に近い側の立ち位置に来るのはわかりますね。市民の側に立つということは、逆に政府・国家権力に対しては対抗するという位置です。なので、メディアは必然的に反権力であり、政府に...

**コメント [y148]:** 野党には与党のような権力はありません。つまり、野党に「過失」があっても、戦争になったり虐殺が起きたりすることはありません。

**コメント [U149]:** 「二度と起こらないように」するには、どういう対応があると、授業では言いましたか。

政治リテラシーを高めるためには、まず政治とは何かを知らなければならない。授業で、政治とは社会における利害の調整・解決であり、そのために価値の配分と権力が必要だと知った。そして、その国家権力の本質は強大国家権力性悪観であり、その上で民主主義・立憲主義という仕組みが存在する。この仕組みを堅持するために政治リテラシーが必要だ。今回の授業を聴いて現在の日本の危機を知ることができた。民主主義における投票率の低下、政府によるメディアへの抑圧・懐柔、強行採決、行政の公文書の改竄・捏造・隠蔽。立憲主義における政府の憲法の軽視・無視・解釈、9条改憲。本来はこのような危機を自分自身で調べ、気づかなければならない。したがって、現在の日本の危機を脱するために、市民一人ひとりが政治リテラシーを高めていかなければならない。

今回の授業では、政治リテラシーの重要性について学んだ。政治とは、社会における利害の調整・解決のことであり、政治が機能するためには「価値の配分」と「権力」が必要である。この国家権力がもし不適切に行使された場合、アウシュビッツ強制収容所のような悲劇が起こる可能性がある。このことから私は、今の若い世代の人たちの政治について人任せにしてしまう考えを改めなければならないと**思った**。私自身も政治について深く考えたことがあまり無かった。しかし、この授業を受けて、国家権力を濫用させないためには、今の政府について関心を持ち、悪い政府ならば選挙によって変えていかなければならないことがわかった。そうするためには、私を含め今の若者がより政治や選挙に積極的にならなければならない。もしそうなれば、国民による正しい政治を行うことができ、民主主義も成り立つのではないかと**考える**。

政治リテラシーとは、政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力のことである。人権の保障や個人の尊厳を守るためには、政治リテラシーを高めねばならない。

政治は首相や大臣らが行うものだが、国家権力は強大であり、人間が政治を行う以上、国家権力は濫用される可能性がある。そこで、民主主義と憲法が重要だ。民主主義で、選挙で容易に政権交代できる仕組みと、賢明な有権者によって代表が選ばれ、その代表により熟議されることにより、悪い政府は変えられなければならない。また、憲法により政府や国家の行動を縛ることで、国家権力が強大になるのを防ぐ必要がある。

だが、現代、選挙における低投票率が問題になっており、民主主義が危ぶまれている。さらに、政府は憲法を軽視している。そのため、我々が政治リテラシーを持ち、現代政治の危機を察知することで、現代政治を良いものに換えなければならないのである。

第二次世界大戦の悲劇を経験した世界は、もう二度と同じようなことを繰り返さないだろうと漠然と思っていました。が、今回の講義を聴いてそんなことはないのではないかと思いました。でも、このままでは私はゆでガエルになってしまっていたらと思うました。そうならないためには、誰か他人と政治について話し合うことが大切だとおもいました。たしかに、思い返してみると、友達と日本の政治については話すことってあまりないので、これからの日本について考えるきっかけにもなるし、考えることによって選挙に行く気にもなり、低投票率の問題も解決の一途をたどる方向に向かうのではないのでしょうか。

コメント [U150]: 全体に感想でなく、政治リテラシーをはじめ何か考えたことを書いてください。

今回の講義を聞いて、政治リテラシーを持つことは重要だが、民主主義や憲法が様々な理由で危機に晒されている現在の日本では、政治リテラシーによって政治への知識を獲得することは出来ても、そこから行動を選択し、実際に行動することは難しいであろうというのを考えた。

コメント [U151]: なぜ行動は難しいのでしょうか。頭で考えてわかっているだけでは結局、外の世界は何も変わりません。

今回の授業では、民衆主義と立憲主義の重要性について学んだ。これらは国民が国家権力よりも上であることを保証している仕組みである。しかし、この仕組みが外れて国家権力の方が上に立ってしまった場合、もし権力者が間違った方向に舵を切った時に国民の立場でその方向を変えさせることが不可能となる。間違った方向に進めてしまった結果は映像でも見たような無残な姿である。立憲主義や民主主義は国家が正常に成り立つ為に必要であることが分かる。これは、逆に国民にも責任があるということだ。国民が正しく判断できないと誤った方向に流れてしまうし、国の権力者がしている事に対して監視する必要がある。監視といっても直接は無理なので、メディアが国の行政と国民をつなぐ役割を担う。メディアは政府の意思を酌むことはしてはいけない。報道は自由でなければいけない。国民はメディアが発信している内容に対して、正しく判断するリテラシーも必要だ。

コメント [U152]: 民主

国家権力は強大であり、濫用する可能性がある。このようなことに対して、人々は悪い政府を変えるために選挙に行ったり、政府の行動を縛るために政治リテラシーを持ったりすることが必要である。だが、最近メディアが衰退したり、政府が強行採決、隠蔽、改竄、

捏造を行ったりと、民主主義が危機に瀕している。また、安保法制で憲法を軽視したり会計検査院が機能麻痺したりと立憲主義も瀕している。私は、ここまで危機に瀕していると思っていなかった。政府がメディアを抑圧したり、強行採決を行っていたりしているとは知らなかった。また、国民が政府を縛るはずの憲法を軽視したり、反対に国民を縛り人権を軽視したりしているとも知らなかった。このような政府の行動を知るためにも選挙に行き、政治リテラシーを持つことが大切であると考える。

今回の講義は政治リテラシーを扱いました。饗場先生は政治リテラシーとは「政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力」と定義なされました。それに関わり、私は、正しい意味での政治リテラシーも持つためには、政治に対する正しい知識が備わっていることが不可欠だと思いました。ここで言う正しい知識とは自らの思想、主義に基づいて情報を取捨選択するのではなく、良心に基づき、更に政治的にニュートラルな立場で、情報を取捨選択することで得られるものです。誤った政治リテラシーを持つものとしてネットウヨ、パヨクが挙げられます。彼らは政治に対する関心は持っているものの、自らの思想に基づき情報を取捨選択しているため、その言動は常識、良識を欠いています。彼らのように誤った政治リテラシーを持たない為にも、私たちは良心に基づき、更に政治的にニュートラルな立場で、情報を取捨選択する必要があります。

生まれた時から「政治」というものが存在していて、小学校の時から今までずっと授業で何度もふれてきました。だから、あたりまえに存在するものとして深く考えてきたことはなかったです。しかし、改めて考えてみると、きちんと理解しておかなければならないことだということがわかりました。政治についてあやふやにして生きていたらいけません。最近、ニュースで北朝鮮の問題が沢山取り上げられています。政治には興味がなかったのですが、それについて興味をもって食い入るように見るようになりました。私たちに今必要なのは、まさにこういうことです。政治に興味を持たなければなりません。そして興味を持つだけでなく、情報を沢山吸収するのです。知識があるとそこから多くのことが見えてきます。視野が広がり、状況を判断する力がつきます。考えようとしなければ何も始まりません。新聞を読むことも一つの大きな手段だと思いました。

今、憲法改正を目指す動きが活発だけれど、そもそも自民党は前から憲法改正を掲げ

**コメント [U153]:** 政治的にニュートラル（中立）という立場はありません。何も考えない人は、わからないのだから当然、中立しかありませんが、少しでも考える人は何らかの方向性が出ます。その時点でニュートラルではありません。ですから、政治的な結論はニュートラルでなくてよいのです。ただ、その方向性に至る前に、なるべく多面的な観点をふまえ、論理的、合理的に考えましょう。その結果、最後には本人の価値観、人生観、性格なども反映して方向性が出ます。

たとえば、体制派か反体制派か、保守派か進歩派か、全体主義か個人主義か、大きな政府か小さな政府か、そんな中で、右翼か左翼か（ネットウヨかパヨクか）もあります。

おそらくあなたがここで言っているニュートラルは、多面性という意味かもしれませんが。なるべく多くの観点からものごとを考えるアプローチは大事です。一つの観点から結論を出すのは賢くありません。その意味で、政治的に多様な観点にもとづき、情報を取捨選択してください。

確かにネット上の政治的な意見には聞くに値しないものが多数あります。それらは、感情論の主張、あるいは根拠がない主張、筋が通っていない主張、観点が一面的な主張などです。それらは無視しましょう。

**コメント [U154]:** なぜ政治に興味を持たなければならないのですか？授業ではどう説明していたのでしょうか。

ていたので唐突な話でもおかしい話でもない。確かに手続きに問題があるのかもしれないが、憲法改正など容易にできるものではないから、強引にでも押し進められるなら進めてしまおうというのは当然だ。選挙で選んだのは私たちなのだからあちらからすると、何をいまさら、というものだろう。

しかし、その選挙が疑わしいのが現状だ。投票率が低いということは国民の意思が十分に反映されていない可能性がある。与党が自民党であるべきではない可能性もあるし、強行して政策を進められるほどの議席を持っているのが適当ではないかもしれない。投票率が90%を超え、そのうえで現在と同じ結果なのであれば何も言うまい。それだけ政治に関心が高く各党の政策が周知されているのが当然の世の中であれば議論が尽くされ、国民の意思が反映された答えが出る国会になるだろうから。

ホロコーストの映像は衝撃的だった。国家権力を濫用されると本当におそろしいことが起こるのなら私たちは政府の状況を監視する必要があると考える。そのために私ができることは新聞を読んだりニュースを見たりして今の政府の状況を監視し、きちんと投票にいくことだと考える。それをする際に政治とは社会における利害の調整、解決であることと社会で平穏に暮らすために必要なことは価値の配分と権力であること、メディアが機能しないと民主主義は機能しないことを意識する必要がある。

今回の総合科学入門講座の「政治リテラシーを高める」授業で考えたことは、政治リテラシーを高めるためにも、普段自分たちが得ている情報や情報源が信憑性のあるものなのか、そうでないのか判断できるようにはならなくてはならない、ということである。

政治リテラシーを向上させるためには、情報を知ることが不可欠であるとわかった。そして、その情報の信憑性を自分で判断できるようになるためにも、政治やそれに関する知識を学び、知って、その知識を体系化していかなければならない。それは、知識が体系化してくると自然と、間違った情報・知識の選別ができるようになるからだ。また、政治に関する情報を積極的に取得していこう、という姿勢も重要である。

私たち市民は国家の前では圧倒的に弱いということを知り、強大な国家権力は政府によって濫用される可能性が常にあり、その濫用による市民の惨害を避ける仕組みとして「民主主義」「立憲主義」がある。しかし、財務省の公文書改ざんは、民主主義の根底を壊す事

**コメント [U155]:** 確かに自民党は結党以来、自主憲法をつくるというてますから、その意味で改憲は唐突ではありません。しかし、2012年に発表した自民党憲法改正草案と今安倍首相が提案している改憲の内容は相当違うので、一貫性がありません。今の安倍改憲案はとにかく改憲ありきで、場当たりの通りやすいものを見つろっているような、いい加減さがあります。

**コメント [U156]:** 権力を持っている側は、何でも強引にできるから、それでよいという考え方なら、国家権力の濫用・暴走は全く止めようがないですが、それでもよいということでしょうか（ホロコーストの映像は見ましたよね?）。憲法という国の根幹や立憲主義という不可欠の仕組みの改変を、今チャンスだからと強引に拙速に進められては、市民の側としてはたまったものではありません。

**コメント [U157]:** 現政権は、選挙の前に、賛否があり批判もあるような政策は隠しておいて、選挙後、政権を維持した後、それらを強引に進めるという手法を多用します。改憲についても、選挙前にはほとんど争点として触れないままでしたから、有権者からすれば、「そんな話、聞いてないぞ」という反応になります。

**コメント [U158]:** それはそうですが、そもそも政治リテラシーがなぜ大事かという授業の話はわかっていますか。

件であり、日本では今、民主主義や立憲主義が深刻な危機にある。この危機を脱するためには、常に関心を持ち知識を得て、必要ならば行動をとる「政治リテラシー」が私たちには必要である。

今回の授業は、政治リテラシーを身につけることが必要だという内容だった。授業の中で、政治への興味関心の薄れを表すものとして若者の投票率の低さを挙げていた。しかしこの投票率のグラフをよく見ると、全年代で近年投票率が著しく低下していることが分かる。その理由として、投票に行くのが面倒だという人もいるだろうが、一番は政治に期待が持てなくなっているからだろう。だが、今の政治に期待が持てないからといって政治離れをしては、今政治の世界がいかに危険な状態かも把握出来ない。身をもって感じる変化がないから危機的状況といっても分からないかもしれないが、このまま野放しにしておくのではなく、政治に関する情報を仕入れていくことや選挙に行くことが大切なのだ。

**コメント [U159]:** 多くの人はこの「ゆでガエルの危機」を実感していませんから、授業でわかったあなたが教えてあげてください。

日本は今、民主主義と立憲主義が深刻な危機にさらされている。

年々減少し続ける投票率、政府の抑圧・懐柔によるマスメディアの機能低下、連発する強行採決など様々な面で民主主義の危機は見て取れるが、特に記憶に新しいのは財務省による文書改竄だろう。私たち市民は公文書から情報を得て、それをもとに政府を判断するのに、その文書自体が書き換えられては、まともな判断などできるはずもない。

また政府は独自の憲法解釈により、集団的自衛権の適用や共謀罪の成立など、本来政府を縛るものであったはずの憲法を、国民を縛るものに変えようとしている。

**コメント [U160]:** 「国民を縛るものに変えようとしている」のは2012年の自民党憲法改正草案のほうです。集団的自衛権の行使は立憲主義の軽視という論点です。

これらの影響は今実感できるようなものではないが、ぼうっとしているととんでもない独裁政権になっているということもあり得る。

こうならないためには、政治に対する関心を持ち、知識を得て、実際に行動に移していかなければならない。

**コメント [U161]:** そうです、教育に国が介入するというのは大変危惧すべき話です。前の大戦のときは教育が悪用され戦争の遂行を支えました。教育を政府が統制すれば子どもの思想を恣意的に操作して、国の言うことを聞く市民をつくれてしまいます。教育は国の不当な支配を受けてはならないというのが鉄則ですが、今の政権を教育に介入する傾向が強いのです。今年から始まった小学校、中学校における道徳の授業の教科化は、この点で大きな懸念が指摘されます。

今回の講義を聞いて感じたことは、自分がどれだけ無知であるかということに尽きる。この講義の話を知ってから、教育に政治が介入しているというニュースを見た。今まではそうなんだなとしか感じなかったものも、なぜ政治が介入してきたのか、と疑問に満ちた自分を感じた。大虐殺の実態をNHKの番組で見た中で、「ここでこのような事があるということは、他のところでもあるということだ」、という言葉聞いた。その通りだと思った。



さらに言えば、同じ人間が起こしたことであるから、私たちがその立場になることがあるかもしれないということだ。私たちがどのようにしてそのような事を起こさないか、というよりも、この実態をどのようにして多くの人に知ってもらえるのかというのを考えさせられた講義であった。